
超次元学園へようこそ！！『スマハツストーリー』

鳴神 ソラ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超次元学園へようこそ！『スマハツストーリー』

【NNコード】

N5885X

【作者名】

鳴神 ソラ

【あらすじ】

真王さんから許可を貰い書きます「超次元学園へようこそ！」のスマハツバージョンです！！主に、マリオや空達がメインになります！真王さんの本家やなめ猫さんが書かれてるアナザーストーリーと平行して進んで行けたら良いなと思います

第1話：ハートレス退治と新たな転校生（前書き）

と言ひ訳で始まりました！『超次元学園へようこそ……』のスマハツバージョン！！

マリオ「最初の話はなめ猫が書いてるアナザーストーリーの13話
「スパイダー!!!!」と平行したお話を」

ルイージ「それでこっちのキャラをね：」

第1話：ハートレス退治と新たな転校生

「マリオ」「とあつ！！」

飛び掛るハートレスの集団をマリオは蹴り飛ばした後にファイアーボールで飛ばす。

リュウケンドー「いきなり過ぎるよなー！」

ソロ「まつたくだな！」

ゲキリュウケンとキー・ブレードを振るいながらポッドスパイダーを倒すリュウケンドーの後ろでソロがウルトラゼロランансとゼロライザーを振るいながらソロがリュウケンドーの言葉に同意する。

スネーク「それにしてもマザーはビビっているんだ！」

ルカリオ「今探してると所だ！！」

ネオス「なるべく卑くお願ひします！！」

ネクサス「…………回じへ」

ロケットランチャーでポッドスパイダーを吹き飛ばして聞くスネークにルカリオはそう言い、明久が変身したネオスが急かし、ムツツリー二が変身したネクサスがそう叫ぶ。

そんなメンバーとは別に外では……

????「おお～此處が超次元学園か！」

超次元学園の校門前で身長はベールと同じ位で髪が膝まで伸びて色は青色、目も青色で服装は上は東方の文の服をベースにアレンジした感じで腋や肩が露出しており、東方の靈夢の様に白い袖を虹色の紐で括り付け、下はミニスカートで青い生地の上に雪の結晶が描かれて、首に白いマフラーが巻いている女性がいた。

腰には6本の剣を差している。

????「それは良いが…何やらハートレス反応が出てるよつだぞ
チルノ」

左手首からした声に女性、チルノは右手首を顔の前に持つて行く。

その手首には龍型のアクセサリーがついていた。

チルノ「やうなのヒョウリュウケン？やあ他の皆と合流します
か！」

そう言つと同時に右手首にあつた龍のアクセサリーが光り、その後にチルノの左手にゲキリュウケンの青の部分を水色に染めた剣、ヒヨウリュウケンが握られていた。

チルノ「んじゃああたいの超次元学園での初めての大暴れと行きますか！…」

そつぱつと同時にチルノは駆け出す。

リュウケンドー「チョイイサー！！」

もどつてこひらはあらかたポッドスペイダーを倒し、リュウケンドーはふいーと顔の汗をぬぐう動作をする。

ソロ「これであらかた倒したな」

ネス「それで後のマザーはいる?」

ルカリオ「もう少しひ…大型のが1体こひらに向かつて来ていろ!」

オリマー「もしやそれがマザー?」

周りを見て言うソロにネスはルカリオにそう聞き、感知したルカリオは叫び、オリマーがそう言つと同時に後ろにポッドスペイダーを引き連れて歩くポットセントィビートが現れた。

ソロ「あいつがマザーか?」

マリオ「後ろからどんどん生み出して切り離してくるからそりだらうな…」

それ見て弦くソロにマリオはポットセントィビートを見て言つ。

ルイージ「どいつもく?」

マリオ「そりゃあ勿論、速攻で倒すぞ!」

??.?.?.「それならあたいがやつてしまふよ。」

そう言つと同時にマリオ達の間を駆け抜けて言つたのは…

リュウケンドー「チルノ！？」

ソロ「何で此処に！？」

マリオ「ああ、俺が真王理事長に頼んでな

驚くリュウケンドーとソロにマリオがそう言つとチルノはダッシュ
した後にジャンプしてヒョウリュウケンの代わりにバスター・チル
ノソードを下に向け…

チルノ「剣技！クライムハザード！！別バージョン…！」

ダッシュの勢いでポツトセンティビートを後ろにいたポッドスパイ
ダー」と一刀両断する。

チルノ「あたいつてばサイキヨーね！…」

そう言ってチルノは残ったポッドスパイダーをヒョウリュウケンで
切り裂いた後にきめ台詞を言う。

リュウケンドー「よつーチルノ！」

ソロ「まさかお前も来るとはな」

チルノ「へへん」

マリオ「そういや…文や白蓮、早苗に大妖精とレティも呼んだ筈だ
が？あいつ等は？」

駆け寄るリュウケンダーとソロにてチルノは鼻を擦る中、マリオが周りをチルノ→ヨゼ&チルノの保護者を思い浮かべて見て聞く。

チルノ「レティは少し遅れてさ…文や白蓮に早苗は何か喧嘩してて大ちゃんは後で行くからで3人の喧嘩を仲裁してるよ」

マリオ「それにしても…何か遠くから別の気配があるな…」

ルカリオ「何やらハートレスとはまた違う波動だ…近くにカイト達の波動も感じる」

チルノ「ようしーなー早く行こー！」

リュウケンダー「だな！」

ソロ「ああー…」

マリオとルカリオの後にチルノの言葉にリュウケンダーとソロが答えた後に駆け出す。

ルイージ「そう言えばフォックスは？」

スネーク「どこに行ってるんだあいつは？」

ちなみにその途中でマリオ達はスパイダーの真のマザードぶつかるのは別の話

第1話：ハートレス退治と新たな転校生（後書き）

ネス「と言ひ訳で作者なりの超次元学園へようこそ……」の第1話で
した！」

ルイージ「フォックスはどう？」…

クッパ「まあ、なめ猫の所で分かるのだ」

ピット「だね」

ソニック「感想を待ってるぜ」

第2話・食堂のおでん屋ガノン（前書き）

フォックス「思いつたりタイトル通り」

リンク「ですね」

ワニオ「始まるやー」

第2話・食堂のおでん屋ガノン

ハートレス騒ぎ終わった後に来たチルノLOVEMEズとレティの挨拶が終わった翌日

早苗「チルノちゃん！一緒に食べましょー！」

文「いえ！私と…」

白蓮「私としませんか？」

大妖精「チルノちゃん！一緒に食べよー！」

チルノ「そんなに焦らなくとも大丈夫だと思つよ」

昼食の時間と共にわいわいとチルノに集まるチルノLOVEMEズ、それにレティはくすくすと見ている。

カイト「…何か凄いですね」

銀時「そうだな」

ソロ「そつか？」

空「普通通りだよな」

それを見てカイトと銀時はそう言い、ソロと変身を解いた空が言つ。

その言葉に2人はホントに鈍いと思つた後に先生陣が集まつてゐる事

に気づく。

カービィ「何か先生陣が集まってるね」

スネーク「なんでも、新しい職員が来たそだぞ」

ソニック「それ誰なんだろうな」

同じく気づいたカービィが呟き、スネークが言った後にソニックが
言つと…

ガノン「へイ、大根お待ち」

リンク「チクワモ〇〇Kですよ」

ツッコミトリオ「お前らかよ…」

ガノンとリンクが出て来た事にスマハツでのツッコミトリオがツッ
コミを入れる。

マリオ「おっ、来たんだな」

ガノン「ああ」

ネプテューヌ「またマリオさんが呼んだの?」

マリオ「ああ、真王理事長にまた言つてな」

挨拶するマリオにガノンは答え、ネプテューヌの問い合わせにマリオはそ
う言つ。

ガノン「俺の部屋の隣はカウンセリング室を兼ねてるからもし相談事があるなら来てくれ」

神楽「と書つか何でおでんを出してるネ」

ガノンが言った後に神楽が聞く。

ガノン「そりゃあ今の俺の本業だしな」

リンク「私はその手伝いですよ…ちなみにこれ以外では皆さんと一緒に勉強しますので」

ピット「と書つか…あんた大丈夫なんですか?」

ガノンの後のリンクにピットが訝しげに聞く。

新八「何かあるの?」

ピット「実践しましょ!…レーティアさんとリンク以外は離れて…
レーティアさんは魅力のオーラをやつちやつてください」

レーティア「えつ…ええ…」

新八の言葉にピットはそう言い、指名されたレーティアは戸惑った
後にリンクを除いた全員が離れたのを確認した後に魅力のオーラを
出す。

その瞬間…

リンク「はっ、はっ…ばぐっしゃい！…！」

学園内に響く程のくしゃみをする。

リンク「ばくしゃん…ひくしゃん…ほくしゃん…ばくしゅん…！」

銀ハ「レーティアストップストップ！」

レーティア「あつ、はー」

大きいくしゃみを連発するリンクを見て銀ハが叫び、レーティアも止めて数秒後にくしゃみは止まり、リンクはあ…と息を吐く。

ピット「この通り、本人は魅力系のを感じるとくしゃみしちゃう。魅力系アレルギーなんですよ」

新ハ「どんなアレルギー…？」

ティアナ「じつやつたらそうなるんですかああああー…？」

ルイージ「それが不明なんだよね…」

ドクター「私達でも分かんないのだよ」

ため息をついて説明するピットに新ハとティアナは叫び、ルイージとドクターやスマハツメンバーはため息を吐く。

超次元学園にまた新たな生徒と職員が加わったのであった。

…その後、時たまリンクのくしゃみが響いたのであった。

第2話・食堂のおでん屋ガノン（後書き）

リンク「此処で出しますか！」

フォックス「頑張れリンク」

明久「ファイトです！」

ファルコ「だな」

リンク「うわあ… 色んな意味で不安たっぷり…」

第3話・マリオ達の修行（前書き）

明久&ムツツリー二「（ガタガタブルブル）」

ルイージ「（愁傷様；」

スネーク「頑張れ」

第3話・マリオ達の修行

マニホ「400、401、402」

今日も元気に修行しているマリオ

カイト・△〇〇・△〇一・△〇二」
カイトもやっていて…離れた場所で明久とムツツリー二が特訓をしていた。

ムツツリー「…………師父の練習メニューを勝手に増やさないで
欲しい」

綱の上で弾丸の雨しのぎながら明久は叫び、ムツツリーも避けながら文句を言つ。

ミリア「あの2人もやるんだね」

マリオ「まあ、あの2人が俺と同じ修行をしたいって言うからな……ちなみに俺は5歳の時、あいつ等は8歳の時にやっているぞ」

カイト「そりやまた…」

ミコア「凄いね」

マリオの言葉にカイトとミリアはそう言ひ。

こなた「いや～こっちも凄いけどあっちも凄いね～」

かがみ「そうね…」

見ていたこなたはマリオから視線を外して別の方向を見て、かがみも同意してその方向を見る。

ソロ「デアッ！」

空「はつ…」

チルノ「つりやあー！」

3人がそれぞれ自分の武器や相棒を振るつて練習している。

それぞれ一方を2人同時にしたり、別々にぶつかりあつてる。

離れた場所でチルノ・LOVIEズがそれを見てる。

レティ「やつてるわね」

そこにレティも来る。

ちなみに普段は原作の服だが今回はアドチルの服を着ていた。

レティ「それじゃあ私も行きますか」

セツ言つと同時にカードを取り出し、前面に翳すと地面から剣が現れ、それを掴み取る。

レティ「…」

そう言つと同時に覆つていた鞘部分が吹き飛び、その刃を見せる。

そして駆け出すと共に空に剣を振り下ろす。

空「うーー！」

それに空は慌てて防いだ後に吹き飛び、着地する。

レティ「私も混ざりせて貢うわ」

チルノ「うわあ…」

ソロ「厄介だな」

空「確かに」

剣を構えて言つレティに命流したチルノとソロ、空は警戒する。

レティ「はーー！」

ソロ「くーー！」

先ず、レティはソロに剣を振り下ろし、ソロはゼロライザーで防ぐ。

そして左方向から来るチルノをレティは左足で蹴り飛ばすと共に…

レティ「三季と百花を覆つ白銀の六花…フラー」

ソロを吹き飛ばし、反対方向から来た空のお腹に右手を付け…

レティ「ウエザラウエイ…」

空「うわ…」

吹き飛ばす。

カイト「やるな…」

マリオ「まあ、レティはあいつ等の師匠の様な存在だからな」

それを終えたカイトが咳き、マリオがそつまくつ。

数分後

レティ「はい、終わり」

目の前でぐでーとなつている3人にレティは笑顔で言つ。

空「やつぱしていつえ…」

ソロ「だな…」

レティ「あらあら、5%しか何時も出してない究極の力を持つ魔弾
剣士さんと光の巨人さんが何言つてるの」

ぜえせえと息を吐く空とソロにレティは苦笑して言つ。

チルノ「うう…ホントにレティは強いよね…」

レティ「大丈夫よ、いつかは越えられるわ」

チルノ「そのいつかってどれ位かな…」

チルノの咳きにレティはそう言い、チルノがそう言つとレティは頭を撫でていつかよと言つ。

チルノLOVEズ「……」

カイト「（指を咥えて羨ましい顔でレティさんを見てる…）」

ミコア「（そんなに好きなんだね）」

その様子を見ているチルノLOVEズにカイトとミコアは冷や汗を搔いたのであつた。

ちなみに…

明久「き、きつかつた…」

ムツツリー「…………同じく」

2人はちゃんと乗り越えられたのであつた。

第3話・マリオ達の修行（後書き）

リュカ「今日は修行の風景だね」

ネス「後半はレティさんのターンって感じだったけど」「

スネーク「そうだな…」

クッパ「明久とムツツリーも大変だったのだ…」

第4話・敵に渡すな! キーパー (前書き)

スネーク「今日は魔王のリクエストに答えてのお話だ」

リンク「それでですね…」

ルイージ「また内のキャラ登場…」

マリオ「だな」

第4話・敵に渡すな！KEYKEEP！

とある日の事…

ネプテューヌ「あれ？」

歩いていたネプテューヌは一回り大きいカギが墜ちていた。

ネプテューヌ「何だろこれ？」

首を傾げながらネプテューヌはその鍵を拾つてジロジロと見る。

すると…

? ? ? 「貰つた！！」

謎の男達がそのカギをネプテューヌ奪い去つて行く。

ネプテューヌ「何あいつ等！」

むかつときたネプテューヌは真王に知らせに走る。

真王「困つたな…どこに行つたんだ…」

ネプテューヌ「あれ？どうしたの理事長？」

理事長室に入ると困つた顔をしている真王がいて、ネプテューヌは話しかける。

真王「ネプテューヌか…困った事があつてな…そつちはビリしたんだ？」

ネプテューヌ「あのね、いらつとする事があつたんだよ！大きいカギを見つけてさ、見ていたらいきなり知らない男達に取られたんだよ！」

その言葉に真王はまさか…と呟いた後に写真を取り出す。

真王「ネプテューヌ…もしやそのカギはこれか？」

ネプテューヌ「ん？……ああ…」れこれ！

写真を見てネプテューヌは指差す。

真王「やばいぞ…」

ネプテューヌ「やばいって？」

真王「それは超次元学園の超金庫のカギだ！」

鬼気迫る真王にネプテューヌは聞くと返される。

ネプテューヌ「ええ…？」

真王「やばいな…そいつ等に金庫の全てを奪われたら学園崩壊の危機だ！」

ネプテューヌ「それじゃあ早く見つけて取り返さないと…」

魔王の言葉にネプテューヌがそう囁いてる頃

ソロ「何だこのカギ?」

空「見た事ないカギだな?」

チルノ「と言うか…超次元学園のマークが入ってるね」

ソロ達がカギを取り返していた。

ちなみにぶちのめした理由が何かしょひと囁つのが顔に出でていたから

男「そのカギ渡せ!…」

男2「あの学園の倉庫の中身で俺たちは儲かるんだ!…」

男3「馬鹿!何田的話し方ってんなんだよ!…」

それに呪きのめされていた男達はガバッと起き上がりて囁く。

空「聞いたか?」

ソロ「ああ、なおさら渡せないな!チルノはそれを持って逃げろ!
お前両手塞がってるし!」

チルノ「分かった!…」

それぞれキーブレードとウルトラゼロランスを構え、空とソロは男
達と戦い、チルノは逃げる。

その後ろを空とソロを無視した男達が来るが…

マリオ「おりやあ！」

ルイージ「とう…！」

フォックス「はつ！」

スネーク「ふん！」

マリオ達が現れ、男達を妨害する。

チルノ「皆！」

銀時「チルノ！それを絶対に渡すなよ…」

ネプテューヌ「運命がかかってるからね…！」

チルノ「分かった！」

銀時とネプテューヌの言葉にチルノは頷いた後に駆け出す。

追いかけようとする男達だが銀時たちにより先に行けない。

大丈夫と思つた時に…

男4「いたぞ！」

チルノ「うわっ！？」

目の前の別の集団が現れる。

慌ててチルノは止まり、どうしようかと思つた時…

ヒュウウウウウウ

何かの落下音に集団とチルノが上を見ると…

ドオオオオオオーン！！！

集団が落ちて来たそれに潰された。

チルノ「あれ？ キュレム？」

落ちて来たそれ、寝ているキュレムにチルノは目を丸くする。

カイト「寝てるな…」

ミリア「落ちて来たのに…」

「もしゃ」こりは…」

？？？「悪い事をする奴は詐れないぞーー！」

カイトとミリアが言った後にキュレムを見たファルゴが感づいた瞬

間にキュレムの頭に1人の少女が乗る。

銀時「おい、何かフェイトを小さくした奴だな」

レティ「あらあら」

少女 レヴィ「悪い事をする奴をぶつた切るー雷刃の襲撃者ー・レビイ・ザ・スラッシュヤー！参上！」

？？？「何やつてるんですかあなたは？」

？？？「まつたぐ……」

銀時の言葉の後にレティは困った顔をし、少女、レヴィはビシッと決めると空中から2人の少女が降りて来る。

ファルコ「ロードにシュテル、お前らも来てたのか……」

ビビ「えっ？ 知り合いで？」

ふうと息を吐くファルコにビビは聞く。

レビィ「ヤツホー、主にチルノ！ 戻れキュレム！」

シユテル「私たちも来ました」

ロード「つむ、呼ばれたので来たのだ」

ファルコとチルノに挨拶してキュレムをスーパーボールに戻すレビィを横目で見た後にシユテルとロードはファルコに言う。

ビビヒグレイが驚いている間にさりに凄い速さで2つの影がファル口に抱き付く。

空「フランにお空も呼んだのか？」

マリオ「ああ、何でも来たかったらしごからまた頼み込んでな」

フラン「不動～」

お空「うにゅ～」

ファル口「お前ら…突撃で来るな…」

ファル口に抱き付くフランとお空を見て空は聞き、マリオはやう言つてゐる…

フォックス「これは…せりに楽しくなるな～」

ネス「そうだね～」

起き上がるつとする集団を氣絶させながらフォックスとネスはそつと並んで

じつしてカギは魔王の元に戻り、学園崩壊の危機は免れたのであった。

その後、チルノとレヴィのぶつかり合いが良く見かけるようになり、ガノンの所で相談するファル口の姿があつたのであつた。

第4話・敵に渡すな! キーキーKEYキーパー(後書き)

ネス「と訳で魔王をさばいたか?」

リュカ「ファルさん…大変だよね…」

スネーク「だな」

クッパ「うむ」

ワリオ「次回を楽しみにじとけよ」

第5話・強襲！－ギガレック！（前書き）

スネーク「魔王のリクエストだ！」

フォックス「それと同時にぬ猫のリクエストにも答える様だ」

ピット「けどなぬ猫さんの最初のはギャグだよね？」

第5話・強襲！－ギガレック！

レビィ達が来た翌日

？？？「（シクシクシクシクシクシクシク）」

空「ファルコ」泣くなよ～」

カービィ「そ、うだよ～ほんと女神化されての登場だつたんだしつてか幻想卿では女性姿がデフォだつたんだし諦めようよ～」

体育座りして泣いてる女性に空とカービィがそつそつ。

泣いてる女性はファルコン・ハート、ファルコが女体化+女神化された姿なのだ。

なぜこいつなつているかと言ひとフランとお姉…と言つかフランの姉、レミコアとお空の主、ひとりからの伝言であった。

レミコア『フランがいるんだし、将来は幻想卿で住むんだから女性姿でいなさい』

さとり『あなたが男性だとは分かつてますが…やはり女性姿の方がしつくり来るので』

ちなみにそれにフォックスや一部が笑った。

カイト「ファルコさん…大変だな…」

ミコア「やつだね！」

こなた「え、あの姿はなかなか萌えますな～」

かがみ「それが泣いてる原因でしょうが！！」

ファルコン・ハートを見て、カイトとミコアは冷や汗流しながら同情し、こなたの言葉にかがみは頭を呴ぐ。

ソロ「やれやれ…ん？」

それに肩をすくめるソロだったがふと、上を見る。

するとメガレッグを4本足にしてもっと大きい姿にしたギガレッグが落ちて来た。

チルノ「何あれ！？」

レビィ「デカイぞ！」

現れたギガレッグにチルノとレビィが驚いた後にギガレッグの体に付いたキラー砲台からキラーが発射される。

ロード「撃つて來たぞ！」

ソロ「迎撃だーー！」

ロードの後のソロの言葉に遠距離攻撃が出来るメンバーがキラーを倒していく。

そこに…

ドーン「ファルコー頼まれた物が出来たであーるー！」

ファルコン・ハート「ホントか！」

束「ばっちらりだよ」

源外「お前さんの依頼通りに作つたぞ！」

ルイージ「何か作つてたの！？」

現れたドーン、束、源外の言葉にルイージが驚いた後にドーンが代表でポチッとなど懐から取り出したボタンを押す。

フォックス「うおつ！？」

神楽「ぬおつ！？」

沖田「おつ？」

ヤルオ「おつ わわわわわ」

フォックスや上の3人の他1部がマジックハンドに掴まれると現れた人数分の砲台に入れられた。

入れられたのはレミリアとさとりの言葉を聞いて笑った者達であった。

ドーン「これぞ！』ファイアーフォックスをしてくたぱりなクン』

である……

新ハ「うおおおおおおおい！…思いつきり娘み晴らしだろー」

ファルコン・ハート「笑った奴は…」

ドーンの言葉に新ハがツッコミを入れてる間に大砲から出ようとし
てるが出れないメンバーにファルコン・ハートは渡されたボタンを
持つて言つ。

ファルコン・ハート「ファイヤーフォックスやつてくたばれ」

神楽「死ぬアル！思いつきり死ぬアル！」

ザック「マジすいませんでした！！」

黒い笑顔で言つファルコン・ハートに神楽とザックが代表で言つた
後：

ファルコン・ハート「安心しろ、ギャグだからしなねえよ ポチッ
とな」

フォックスを除いた入れられた一同「メタ過ぎやあああああああ
ああああああ！！！」

フォックス「ファイヤー！！！」

ギガレッグに向かつて発射され、フォックスを先頭に炎に包まれた
一同はギガレッグを貫くと…

ドカー————ン！！

「ファルコン・ハート「きたねえ花火だつたぜ」

ギガレッグは爆発し、飛ばされたメンバーが落ちてくる中、ファルコン・ハートを見てスマハツメンバー以外は思った。

一同「（絶対に怒らせない様にしよう…）」

離れた場所で

？？？「なつ、なんなんだよあいつ等！？」

？？？「ギガレッグを簡単に倒すつてありか！？」

慌てて走る集団がいた。

集団はギガレッグを使って超次元学園を倒して霸者になろうと考えていたがそれがあつさり破られたのに驚き、逃げているのだ。

マリオ「待ちな」

ギルシア「此処から先はいかせねえ」

ピット「ですね」

銀時「蹴りを付けさせて貰うぞ」

そんな集団の前に北斗の気に目覚めた様な氣を纏ったマリオ、ギルシア、ピット、銀時がいて、集団は冷や汗を流した後…

マリオ&ギルシア&ピット&銀時「あたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたた
たたたたたたたたたた
たたたたたたたたた
たたたたたたたた
たたたたたたた
たたたたたた
たたたたた
たたたた
たたた
たた
た

集団「ひでぶつ！！」

4人のマシンガンの様なパンチを受けて集団の野望は途絶えた。

その後、弾丸になつたメンバーはドクターによりすぐに回復したのであつた。

第5話・強襲！－ギガレック！（後書き）

リュカ「と書いた訳でいつかの感じに終わりました…」

ピット「フルさん、大変ですね…」

リンク「ですね」

クッパ「次回を待ってるのだ…！」

第6話・消えた楓 前編（前書き）

スネーク「ゴートニアからのリクエストだ！」

フォックス「つてか、楓ホントにコラボで普通に過ごした所を見た事ないんだけどな」

ネス「それには同意」

第6話・消えた楓 前編

マリオ「今日も平和だな」

ルイージ「そうだね」

ギガレシグの一件から2日経つた日、外を見ながらマリオとルイージがそう言つ会話をしていると…

パン！！

いきなりの音に全員がした方を見るとゼンゼンと荒い息を吐いた桜がいた。

空「どうした桜？そんなにあわ「楓のいる場所を知らない…？」うえつ…？」

空が代表で話し掛け、迫った桜の問いに驚いた後に首を横に振る。

桜は他のメンバーを見るが誰もが知らないと答える。

桜「そんな…」

ソロ「どうしたんだ？楓に何があつたんだ？」

落胆する桜にソロは聞く。

桜「帰つて来てないのよ…」

「マリオ、昨日からか？」

その言葉に楓は頷き、マリオはふむ…と顎を摩ると柾を見る。

マリオ「良し、楓探しをやるか」

銀時「しゃあねえな…」

ネプテューヌ「探そ'う…」

マリオの後に銀時とネプテューヌが続き、他のメンバーもそれぞれ同意する。

真王に事情を話した後にマリオ達は楓の探索に出る。

ネス「と言つわけでやるよ~」

リュカ「うん

もし楓が学校に来たらの事で待機組の中のネスの言葉にリュカは頷いた後に田を瞑る

ネスとリュカは仮面ライダーWを受け継いでおり、それによりリュカはフイリップと同じ様に地球の本棚に入れるのだ。

ネス『キーワード言つよ、一つは音梨 楓』

そう言つと同時に本棚が減るがまだ多い

リュカ「次はどいつもく？」

ネス『うーん… 音梨 梶』

次のキー「ワード」をちらりと絞られるがまだ明確なのが見つからない。

ネス『まだ見つからないか…』

悩むネスだったが梶の事である事を思い出しつゝ。

ネス『ナンパ』

その言葉について一つの本が残り、リュカはそれを取つて見る。

空「見つからないな…」

ソロ「そうだな…」

ルカリオ「……」

上のメンバーで楓を探し歩いている。

ソロ「おっ? マリオから連絡か」

携帯が振動し、それにソロは出る。

ソロ「もしもし?」

マリオ『朗報だ。どうやら楓をナンパした男を梶がボコボコにした

事から楓行方不明が始まつた様だ』

空「あ～…」

ソロ「楓を大事にしているからな…」

ルカリオ「（それ以外に好きだからだな）」

マリオの情報に空とソロはそう言い、ルカリオは心の中で呟く。
マリオ『もしかしたら楓へ痛い目に合わせたい為の人質にされてる
かもしれない』

空「そうか…」

ソロ「それだつたら楓がやばいな…」

マリオ『推測だからな…だがもあるから早く探すぞ』

そう言つた後にマリオとの通話を終えると口を開じていたルカリオ
は口を開く。

ルカリオ「音梨 楓の波動を見つけた」

こつちだとルカリオは走り、空とソロも後を追う。

楓の行方は…

第6話・消えた楓 前編（後書き）

リュカ「と訳でコートピアさんのリクエスト前編です」

フォックス「ホントな…」いつ言ひ関係が多いな・」

リンク「大変ですね・」

第7話・消えた楓 後編（前書き）

スネーク「ゴートピアのリクエスト後編だ」

ネス「都合上、その前にあつた人のは後回しにする事になりました

m(ーー)m

リンク「それで…」

第7話・消えた楓 後編

楓「そう、あの不良が…ふふふふふふふ」

ネプギア「楓さん…」

ルイージ「怖い…」

マリオ「どうやら溜まつてた様だな」

報告を聞いて不気味に笑い出す楓にマリオ以外は後ずさり、楓はどこからともなくエレキ、チーンソー、スパイク、ウインチの4つのアストロスイッチが装填されたフォーゼドライバーを取り出す。

銀時「ちょっと待てええええええええ！」

かがみ「どこのから取り出したのそれ！？」

スネーク「と言つかどれもやばい！」

フォックス「まあ、チーンアレイが右手用だったからまだマシ…か？」

こなた「いや～もう下手したら暴れかねない状態だね～」

フォーゼドライバー「3、2、1…」

楓「変身…！」

銀時たちが各自に言つてゐる間に桃花はフォーゼに変身、そしてエレキスイッチをオンにする。

エレキスイツチ「エレキ・オン」

音声と共にフオーゼの姿は全体が黄金に染まり、複眼が青のエレキ
ステイツになる。

マリオを除いた一同「変身したああああああああ！」

「さう、あつせんマリオー」

とある廃墟では縄で縛られ目隠しと口をガムテープで塞がれた楓が捕まつていて不良の一人がナイフを楓の頬に突きつけ笑みを浮かべていた。

それをソロや空、ルカリオが外でその様子を見ていた。

ପ୍ରକାଶନ କମିଶନ

空「此處はネクサスのを使うか？」

ルカリオ「だが、500人位もいるぞ」

ソロ「そうなると… 匂が少なすぎるな…」

どうしようかと3人が考えていた時…

ドカー——ン！！！

MフォーゼE S「あはははははははは！」

ソロ&空「ええええええええええええええええ！」？」

いきなり空達の少し離れた右側の壁を壊してフォーゼエレキスティツがフル装備で狂ったように笑って現れたのだ。

不良「なつ、何だ！？」

それにナイフを楓の頬に突きつけていた不良が驚いた言葉がその場にいた不良の最後の言葉であった。

その驚きの言葉を発した直後に周りから五百人あまりが出てきたがMフォーゼE Sに瞬殺された。

そう、瞬殺だ。一瞬で不良を全員倒したのだ。

マリオ「お~い」

ルイージ「大丈夫？」

そこにマリオ達が駆けつけ、目の前の光景にマリオ以外は啞然としました。

銀時「マジかよ…」

空「これ、一人でやつたんだよ」

ソロ「いきなりだったから驚いたぜ」

ルカリオ「うむ…」

変身を解いて楓を解放する桺を見ながら空とソロ、ルカリオはそう言つ。

桺「ごめんね楓」

楓「はい?」

マリオ達と別れての帰りの道を歩く途中、桺の突然の謝罪に楓は桺に顔を向ける。

桺「ほら、ああなつたのも私があいつ等をボコボコにしたからだから」

その言葉に楓は桺を優しく抱き締めたのであった。

翌日

マロ「……」

ジーノ「これは…」

マリオが真王に許可を貰つたので超次元学園に来たマロとジーノは

冷や汗を搔く。

柾「ああー!誰が次にやられたいのかしら?」

ドミとなつた不良達に柾は、ビードルを弄びながらソウ聞く。

マロ「弦太朗さんに見せられない…」

ジーノ「普通にソウだね…」

先代を思ひ浮かべて、マロにジーノもソウ聞く。

マリオ「やれやれだぜ」

楓「柾…」

近くでマリオが肩を竦め、楓は目の前の状況に冷や汗を流すのであった。

第7話・消えた楓 後編（後書き）

リュカ「と言つて、でコート・ペアさんのリクエストでした」

スネーク「と言つてなぜにフォーゼにしようとしたんだうな…」

フォックス「うんうん…」

クッパ「次回を楽しみにしているのだ…」

第8話・「あなたとかがみの探求心（前書き）

スネーク「今日はなめ猫のリクエストだ」

フォックス「萌えか…」

ネス「だね～」

第8話・しなたとかがみの探求心

「なた「と訳で学園で一番萌えるのは誰なのかを探そうと思つ
のだよかがみん!」

かがみ「こきなりねあんた・」

カメラ目線でやつて「なたにかがみは呆れる。

かがみ「んで…何でそんな事を?」

こなた「此處には色んな人がいるからね~と言つて行くよかがみ
!」

かがみ「はいは~」

と言つて2人は其の場にいたルイージとジーノを巻き込んで皆を
見まくつて学園で一番萌えるのは誰なのかを追求に向かうのであつ
た。

ルイージ「んで、誰から行くの?」

こなた「此處はやつぱり最近入ったチルノからだね~」

かがみ「けど、どこのいるのか分かるの?」

諦めたルイージがそう聞くとこなたの言つた事にかがみは聞く。

こなた「さつきレティさんに聞いたから」「ちだよ~」

ジーノ「はやいね」

かがみ「こなたは決めた事には行動的ですかね」

駆け出す」なたにジーノはそう言い、かがみはそう答える。

チルノ「あれ？ 皆どうしたの？」

部屋に入ると遊戯王のブリザードプリンセスの服を着たチルノがいて、その周りでは鼻血を流して倒れる文と早苗を介抱しながら文のカメラで写真を取つてゐる大妖精と白蓮に服を作つたムツツリー二とジャンヌがいた。

なぜか文は指先に悔いはないですと血文字を書いていた。

かがみ一何か2名が死に掛けてるうううううううう！－！」

こなた「いや～またか鼻血を流してゐるのを別の人を見るとはね～」

かがみ「まあ、確かにね……」「

運ばれて行く文と草薙を見ながらこなたせり、かがみは冷や汗を搔く。

ジャンヌ「いやあ、まさかあんな」とは思こもしなかつたわ・」

チルノ「ねえねえ白蓮、何で2人は倒れたの？」

白蓮「それ程似合つてゐるつて事ですよ。だから是非…」

早苗&文「やらせはしませんよーーー！」

かがみ「復活はやつーーー！」

ジャンヌが頭を搔き、首を傾げるチルノに白蓮は連れ込もうと声をかけようとして死にかけていたのにもう起きてる2人にかがみは驚く。

その後、こなたとかがみ、ルイージとジーノは回つて行く。

こなた「いや～皆中々の萌えだよね～」

かがみ「んで…誰があんた的に一番萌えなの？」

こなた「ノンノンかがみ、まだ見てない人いるじゃん

ルイージ「それって誰？」

かがみの間にこなたは指を振つてそう言つとルイージが聞く。

こなた「ファル」さんこと現ファルコン・ハートさんー！」

かがみ「流石に止めなさいー！」

ルイージ「そうだよこなたちやん…

こなたの言った事にかがみとルイージがそう言ひ。

こなた「大丈夫大丈夫、フランちゃんとお空ちゃんを見る名目で行くから」

ルイージ&かがみ「（大丈夫かな…）」

お気楽なこなたの言葉にルイージとかがみは不安げになる。

こなた「着いた着いた…んじゃあ」

かがみ「ちょっと、ノックはしなさいよ…」

平然と開けるこなたにかがみがそう言つた後に…

パタン

閉めた。

こなた「いや～お忙しい所でしたな～」

あははと笑うこなただがその額には汗が流れていた。

かがみ「何を見たのよ…」

こなた「かがみ…一ヤンニヤンです」

かがみ「分かった。その一言で今部屋でされてるのが分かったわ」

疲れた顔で聞くかがみに「こなたはそう言い、理解したかがみはそう

言つ。

ルイージ「んで…誰が1番萌えだつたの?」

こなた「誰もが良かつたけど…」

ルイージの問にこなたはそう言つた後にかがみに抱き付く。

こなた「やっぱり私の嫁のかがみだね」

かがみ「ちょ！？」

ルイージ&ジーノ「(うすうす分かってた)」

笑顔で言つこなたにかがみは顔を真つ赤にしてルイージとジーノは
そう呟く。

ちなみにその後、こなたはファルコン・ハートにアイアンクローラーを
1発貰つたのであつた。

第8話・「あなたとかがみの探求心（後書き）

ファルコン・ハート「こなたの野郎…」 鼾の方を向いていたので分かつた。

お空「うにゅ？」 キスしていたので分かつてない。

フラン「？」 吸血していたので同じく。

チルノ「次回を待つてね！！」

第9話・大奪還！モンスター博物館！（前書き）

スネーク「待たせたな！魔王からのリクエストだ！」

フォックス「何かスマハツ出張版がコラボ受付休止になつたらこつちのリクエストが増えたな」

ネス「はい言わないお約束」

第9話・大奪還！モンスター博物館！

ある日の事...

マリオ「さて、今日のコースは…」

銀時「つてか何で教室にテレビ置かれてるんだ?」

新バーソロミエツの止めましよ、銀さん！」

テレビを見るマリオに銀時はツッコみ、ツッコみ役の新ハはきりがないのか諦めていた。

ちなみに作者がいた中学校では普通に教室にテレビがあつた。

するとマリオの見ている番組でモンスター博物館がある強盗チームに占拠されるというニュースが入った。

タバネ「え、あそこが占拠されたの？」

ソロ一知つてゐるのか?』

驚くタバネにソロは聴く。

タバネ「あそこにはね、様々なモンスターの情報が入ってるんだよ」

マリオ「それを悪用されたらダメだから早めに行くぞ」

チルノ&レビイ「お～～！！」

と言つ訳でマリオ達はいち早く強盗チームを捕獲する為にモンスター博物館へ向かった。

リュカ『検索の結果、相手はブラックソルジャーと言つ職業の集団のようです。後、バットショットを飛ばして中を見るとドロイドやストレイドもいるようです』

マリオ「分かつた」

リュカの言葉にマリオは電源を切ると後ろに立てるマロ、ソロ、空、チルノに振り返った後に進む。

それぞれ分かれて行動し、入り口以外で入れる場所からモンスター博物館へ侵入したのだ。

周りを見てマリオはモンスター博物館の中へ入り、マロ、ソロ、空、チルノも入る。

マリオ「さて…行くぞ」

ソロ&空&チルノ「おつー」

マロ「はい！」

その声の後にメンバーは駆け出し、襲い掛かるブラックソルジャー やドロイドにストレイドを早く倒していく。

長引かせると相手の攻撃や自分達の攻撃で備品を壊してしまう恐れがあると考えてである。

マリオ「ふう…これであらかた倒したな

空「そうだな

倒れたブラックソルジャーを縛つて破壊したドロイドやストライドをゴミ袋に纏めてマリオは汗を拭い、簞とチリトリで小さな塵を取りながら空が同意する。

マリオ「危なくなつてゐるや…」

ドカーン…!

マリオが咳いた瞬間、壁を破壊して何かが現れた。

マロ「何ですか！？」

マリオ「どうした？」「

ネプテューヌ『聞いてマリオさん！此處にあったキラーマシンを強盗団が何らかのことをじきじき動かして圧しちゃつた！』

マリオ「それならひっそり来てゐるや…」

ネプテューヌの連絡にマリオはしつづつと同時にキラーマシンの攻撃を受け止める。

マリオ「マロー！フォードのHレキの力でこいつをショートせせり…」

マロ「わっ、分かりました」

マリオの言葉にマロはそういづと擬人化し、フォーゼドライバーを装着し、トランスイッチをONにする。

ちなみにマロの擬人化姿はネプテューヌ位の身長で頭にピンクのメッシュショガ入った白い髪に水色のボーダーが入った半そでに水色のズボンを履いてピンクの靴を履いた少年である。

フォーゼドライバー「3、2、1…」

マロ「変身ー」

レバーを引くと同時にマロは右手を上へ上げると共にその体は仮面ライダーフォーゼになる。

フォーゼ「宇宙キタ————！」

腕をバツと広げた後にすかさず口ケットをヒレキに変えて、ONDする。

フォーゼドライバー「ヒレキ・ヒレキ・オン」

それと同時にヒレキステイツになると今度はレーダーをワインチに変えてONにする。

フォーゼドライバー「ワインチ・ワインチ・オン」

音声と共に左腕にワインチモジュールが装着され、フックをキラー

マシンの胴体に巻きつけた後にレバーを再度引く。

フォーゼードライバー「ハレキ・ウインチ・コモリシトブブレイクーーー！」

フォーゼEES「ライダースタンウェイップーーー！」

音声と必殺名の後にエレキスイッチの電気エネルギーがウインチモジュールのフックヒワイヤーロープを伝つてキラーマシンに行く。

それによつキラーマシンに電撃が伝わつた後にキラーマシンは停止した。

ソロ「止まつたな」

チルノ「やつたね！」

ソロとチルノの言葉の後にフォーゼEESは変身を解く。

その後、強盗団は逮捕されて連行されたのであつた。

第9話・大奪還！モンスター博物館！（後書き）

スネーク「と言う訳で魔王のリクエスト話だったな」

フォックス「何気にオリジナル技出してるな・」

ネス「次回を待つてね♪」

第10話・強襲！ウルトラロボット怪獣！（前書き）

スネーク「光を継ぐ者からのワクエスト話だ」

フォックス「ウルトラ怪獣のロボット参上」

第10話・強襲！ウルトラロボット怪獣！

博物館の事件から翌日

ルイージ「今日も良い天気だね」

新ハ「ホントですね」

こなた「こんな日に何か起きそうだね」

かがみ「止めなさいよ」

授業をのんびり受け、会話するルイージと新ハの後ろでこなたがのほほんとそう言い、かがみが注意した時…

大地が割れて、突如ウェポンナイザー1号と2号が現れ、空からキングジョーとキングジョーブラックが現れた！

こなた「もうかがみがああ言つから出て來たじやんか」

かがみ「私のせいか！私のせいなんか！！」

ソロ「キングジョーとキングジョーブラック！それに確かウェポンナイザー1号と2号…資料で見たのより微妙に違うな…」

マリオ「何者かの改造を受けている様だな…」

現れたウルトラ怪獣にこなたはそう言い、かがみはツツコミ、ソロとマリオはそう言った後に明久とムツツリー、ソロが前に出る。

ソロ「デュワ！」

明久「ウルトラマン！ネオオオオオオス！！」

ムツツリー「…………ネクサス！」

それぞれウルトラマンゼロ、ウルトラマンネオス、ウルトラマンネクサスとなるとウェポンナイザー1号と2号、キングジョーとキングジョーブラックに構えると…

ウルトラマンティガ「ジュワ！」

続いてウルトラマンティガが現れる。

ウルトラマンゼロ「光か！」

ウルトラマンティガ「ソロさん、久しぶりです！」

ウルトラマンネオス「知り合いで？」

ウルトラマンネクサス「…………別世界のティガか…」

ウルトラマンティガ「あつ、初めまして…血口紹介は田の前の前を対処してからにしましょう」

現れたティガにゼロはそう聞き、ティガはそう言い、ネオスとネクサスは話しかけ、ティガは頭を下げた後にウェポンナイザー1号と2号、キングジョーとキングジョーブラックを見て構える。

それに3人共同意した後にそれぞれ駆け出す。

ウルトラマンゼロ「デアツ！…」

キングジョーブラックにゼロは挑み、パンチを繰り出すが…

ガン！！

ウルトラマンゼロ「かつてえええ…」

ぶんぶんとパンチを出した右手を振ってキングジョーブラックを見る。

同じくキングジョーに挑んでいるティガは装甲が同じ様に硬かつた様でパワータイプで挑んでいる。

ウルトラマンネオス「ジュワ！」

ウルトラマンネクサス「フン！」

一方、ウエポナイザー1号と2号は動きがそんなに速くないのだが今戦つてるのは普通に動けるまでに速くなっているのだ。
ていた。

本来ならばウエポナイザー1号と2号は動きがそんなに速くないのだが今戦つてるのは普通に動けるまでに速くなっているのだ。

胸には中性子爆弾リミッターの代わりに黄色い器官がある。

ウルトラマンネオス「強い…けど負けるか！」

ウルトラマンネクサス「…………同じく

ネオスの言葉にネクサスが同意した後にウルトラマンノアになると
ネオスはスターダストとホープを呼び出す。

その際、ノアになつたネクサスにティガは驚いていた。

ネオス「デアッ！」

ネオスがマグネシウム光線を放つと同時にスターダスト・ドラゴン
もシュー・ティングソニックを放つとその前に立つたホープは2つの
光線を双剣で受け止めるとそれぞれ光り輝く。

ウルトラマンネオス「切り裂け！ ホープ剣マグネシウムソニック！
！」

ホープ「トアッ！-」

ネオスの言葉とともにホープは双剣でウェポンナイザー1号を十字に
切り裂く。

ウルトラマンノア「デアッ！-」

ノアはウェポンナイザー2号を投げ飛ばすとライトニング・ノアを放
つ。

それと同時に2体は爆発する。

ウルトラマンティガ「-」

ウルトラマンゼロ「デアツ！」

そしてこちらはキングジローとキングジロー・ブラックを投げ飛ばし、1箇所に集める。

ウルトラマンゼロ「ティガ！此処はステップショット戦法だ！」

ウルトラマンティガPT「ステップショット戦法？」

ゼロの言葉にティガPTが疑問詞浮かべて聞にゼロはミクロ化する。

ウルトラマンゼロ「俺を奴等目掛けてテラシウム光流を放せー！」

ウルトラマンティガPT「危険過ぎだよー！」

ゼロの言った事にティガはそう言つ。

ウルトラマンゼロ「早くしろー！」

ウルトラマンティガPT「…………分かった！行くよゼロー！」

起き上がるキングジローとキングジロー・ブラックを見て叫ぶゼロにティガPTは頷いた後に両腕を左右から上にあげ、胸の前に高密度に集めた超高熱の光エネルギー粒子をゼロへと放つ。

ウルトラマンティガPT「行くよー！」ラadium光流！

撃ち出されると同時にゼロは一気に巨大化し、その勢いでキングジローとキングジロー・ブラックを貫く。

ドカーーーン！！

ゼロが着地すると共にキングジョーとキングジョーブラックは爆発する。

空「よつしゃあーーー！」

チルノ「やつたね！」

それに空とチルノはガツツポーズする。

ウルトラマンティガ「やりましたね」

ウルトラマンティガ「ああーーーしかしこいつ等はデーーによつて改造されたのか？」

ティガの言葉にゼロは頷いた後に爆発後を見て呟く。

その後、ティガは変身を解き、光の姿になると全員に自己紹介する。

光「また何かあつた時は駆けつけます」

ソロ「俺も、お前のピンチには助太刀に行くぜ」

そう言って2人は硬く握手する。

こなた「美しき友情だね～」

その後、光は元の場所に戻ったのであった。

第10話・強襲！ウルトラロボット怪獣！（後書き）

リュカ「と畜生で光を継ぐ者さんのリクエスト話でした」

ネス「ホントにね～」

クッパ「次回を楽しみにしてるのだー！」

第11話・勃発、幽靈騒動！－ 前編（前書き）

スネーク「ゴートニアからのワクエスト話だ」

フォックス「今度は…」

リンク「ですね」

第11話・勃発、幽靈騒動！！！

楓「はうう」

夜中、楓は震えながら学園内を歩いていた。

歩いている理由は忘れ物をしてしまい、取りに来たのだ。

極一これなら樹や他の人とくればよかつたな……」

歩きながら楓は愚痴をほやか。忘れ物のある場所へ向かうと…

楓
「ふえつ？」

後ろから声が聞こえ振り替えたが誰も居らず、楓はまた歩き出した
がさつきの事が気になり後ろを振り返ると…

着物の女性が立つていてすぐに消える。

楓は思わず叫びそのまま氣を失った。

翌日

ソロ「着物を着た女の幽霊?」

チルノ「うん、何でもアークードさんが、警備していた時に叫び声がしてした方に行くと楓が気絶してたんだって、それで聞いて見ると忘れ物を取りに行く途中でその幽霊を見たんだって」

空「一体何なんだろうな?」

チルノ「気になるよね~」

ソロとチルノ、空が昨日の楓が見た幽霊の事を話していると…

楓「ちょっと!何人か手伝いなさい!…」

そこに楓が来る。

銀時「おいおい、いきなりビーツ?」

新ハ「もしかして昨日の幽霊騒ぎの件ですか?」

楓「そうよー手伝いなさいーさもないと…」

ジャンプを読んでいた銀時が顔を上げ、新ハが聞くと楓はそう言ってフォーゼドライバー（エレキ、ローンソー、バイク、ウインチ）を取り出す。

それを見た銀時と新ハは楓誘拐の事を思い出して顔を青くして了承する。

その後、自主的にソロ、チルノ、空、ソニック、ネブテューヌ、ネブギア、こなた、かがみが立候補し、楓のフォーゼ乱用の心配したマロも立候補し、マリオとジーノがその幽霊について調べる為に別

行動するとの事

桺「待つてなさい幽靈…」

ネプテューヌ「燃えてるね

こなた「いや～凄いね～」

銀時「何も起こんなきやあ良いんだがよ…」

ソロ「幽靈出でる時点で起きてるだろ」

燃えてる桺にネプテューヌとこなたが言つた後に銀時は不安げに呟
め、ソロがそつまつ。

第1-1話・勃発、幽靈騒動！－ 前編（後書き）

リュカ「と書いた説でコートニアさんのつクエスト話です」

ネス「出て来た着物の女性の幽靈とは…」

クッパ「次回を待ってるのだ！」

第1-2話・勃発、幽靈騒動！！ 後編（前書き）

スネーク「ゴートニアのリクエスト後編だ」

ネス「どうなるのやら～」

リンク「始まります」

第1-2話・勃発、幽靈騒動!! 後編

桙フォーゼゼウス「ああもう一回このよー」

フォーゼゼウス「落ち着いてください桙さん。」

幽靈を探すが見つかる訳がなく桙は段々苛立ちフォーゼゼウスにていつになりビリーラロッドを持つが同じく変身したマロのフォーゼゼウスに止められる。

空「しつかし幽靈いないな」

銀時「ばつ、ばつせやね、ゆ、幽靈なんていねえよ」

ノウルトライマン「震えてるだ」

頭を搔く空の隣で銀時は震えながら怒鳴り、ノウルトライマンになつてウルトラ透視光線で周りを見ながらソロは指摘する。

そのまま桙は変身したまま探し歩くが見つからない。

新八「どうしまさへもつ時間的にも…」

ネプギア「確かにこのままこると…」

かがみ「さうよね…そろそろ…」

桙フォーゼゼドライバー「スパイク・オン、ワインチ・オン」

査フォーゼＥＳ「何？」

新ハ＆ネプギア＆かがみ「何でもないです」

今日は帰ろうと言つ3人の意見を査フォーゼＥＳはスパイク、ウインチを装備しふリーザロッドで脅し、そのまま捜索が続行させられる。

チルノ「大体の所は調べたよ」

こなた「調べてないのは屋上だね」

ネプテューヌ「それじゃあ行く？」

査フォーゼＥＳ「行くわ」

大体の所を調べ終わつた後にチルノが言つた後にこなたが言い、ネプテューヌの問い合わせに査フォーゼＥＳは即答した後に一同は屋上に向かつ。

銀時「ん?誰かいるぞ」

フォーゼＥＳ「聞いて見ます?」

新ハ「ですね…あの…」

屋上に着くと生徒が居て、新ハが話をしようと近付くと生徒はゾディアーツスイッチを取り出して押しカメレオンゾディアーツになり、更にダミーメモリを取り出す。

「ウルトラマン」「大体分かつた。カメレオンの特性で隠れ、ダミーメモリの能力で幽霊に化けたって事か」

桜フォーゼES「そう言つ事ね…楓を驚かせた罪は高いわよ」

それを見て大体見当が付いて言つてウルトラマンの隣で桜フォーゼESがワインチでカメレオンゾディアーツを縛り。ビリー・ザロッドで電流を流しスパイクで何度も蹴る。

桜フォーゼドライバー「チーンソー・オン」

チーンソーモジュールを出して斬る。

フォーゼES「桜さん！離れてください！」

フォーゼドライバー「ドリル・オン」

頃合いと感じ取り、フォーゼESがそう言つとジャンプしてドリルモジュールを装着した後にその先をカメレオンゾディアーツに向けてレバーを引く。

フォーゼドライバー「ヒレキ・ドリル・リミットブレイク！…」

フォーゼES「ライダー電光ドリルキック！！

桜フォーゼESが離れた後に電撃を纏つたドリルがカメレオンゾディアーツを貫く。

その後にウルトラマンが飛んで来たダミーメモリを掴むと握り潰す。

そしてフォーベルもゾーティアーツスイッチをOFTする。

「マリオ、おお、もう終わってたのか」

ジーノ「らしいね」

「こなた、「遅かつたですな～」

そこに「マリオとジーノが来て、こなたが言つ。

マリオ「ちょっとな、そこの奴にメモリとスイッチを渡した奴を探してたんだよ」

ジーノ「逃げられただけどね」

肩を竦める2人を尻目に楓は変身を解いた後にポキポキを鳴らす。

楓「さて、楓を怖がらせた罪…払つて貰つわよ」

その後、生徒は楓にボロられ、楓にボロボロな顔で謝ったのであった。

第1・2話・勃発、幽靈騒動！！ 後編（後書き）

リュカ「と言つて、ヨーテ・ピアさんのリクエスト話でした。」

リンク「いや～、凄かつたですね！」

ネス「ホントだね～」

クッパ「次回を待ってるのだ！」

第1-3話・猫猫猫猫…（前書き）

フォックス「なめ猫からのリクエスト話だ！」

スネーク「タイトル通り猫日常だな」

ネス「だね～」

第1-3話・猫猫猫

マリオ「今日は冷えるな」

ルイージ「そうだね」

教室に入つてわざ今までの外の寒さにマリオとルイージは話していると女子が集まつてゐるのに気づく。

マリオ「何してゐんだ?」

ピーチ「あつ、マリオ見てみてー猫よ猫ー!」

近寄つて聞くマリオ。ピーチが気づいていた。

覗いてみると1匹の猫がミルクを飲んでいた。

ルイージ「どうしたんですか?」の猫?」

こなた「いや~ネプテューヌが寒がつていたこの子を連れて來たんだよ~」

ネプテューヌ「凍えてたしあんな所で置いとく訳に行かなかつたんだよね~」

同じく覗き込んだルイージの問いにこなたが答え、ネプテューヌが頭を搔いてると…

ソロ「うう…やみ…」

かがみ「あつ、ソロ…つてなんじやそりやあー？」

続けて入って来たソロの姿にかがみは叫ぶ。

今のソロの姿は仮面ライダーゼロイド・ゼロ・グレンフォームになつて沢山の防寒着を身に纏つていて…その上に沢山の猫が張り付いていた。

隣で空とチルノが苦笑していた。

かがみ「何その重武装…！」

ソロ「ソロは寒いんだよ…めつちや寒いんだよ…」

空「ソロは寒いんだよな」

チルノ「冬の時は『タツ』に入ってるよね~」

カイト「どんなだけ弱このせ…」

ソロ「親父も寒さに弱いから遺伝かね？」

ミコト「やうなんだ…」

光の国

セブン「くしゅん…」

ウルトラマン「どうしたセブン?」

メビウス「風邪ですか?」

セブン「いや、ゼロ元尊された気がしてな…」

タロウ「あいつは冷えてるからゼロ元尊しきですね」

セブン「あいつは俺と似てるのか、寒いのには慣れてないからな」

戻つて超次元学園

かがみ「ついでかその猫達どうしたの?」

チルノ「歩いてる途中でグレンフォームの熱さに引かれたみたいで
そ～」

カイト「確かに…ってか凄く暑くないか?」

ゼロ元尊「俺にはこれが丁度良いんだよ…」

かがみの問いにチルノがそう言い、カイトは本人に聞くとそう返される。

その数分後…

こなた「いや～凄い光景だね～」

わざりより倍の猫に埋もれてるノゼロGFを見てこなたはわづひ。

かがみ「それよりもびひするの」の猫の大群?」

ノゼロGF「なんとかしてくれ」

空「やうだよな…」

チルノ「変身を解くのは…無理か」

銀時「いや、暖房器具を入れて貰えよ」

フォックス「だよな」

その後、ソロは暖房器具を入れて貰つて寒くなくなつた。

ソロ「はあ…マシになつた…」

かがみ「けど、まだくつ付かれてるわね」

変身を解いて安堵の息を吐くソロを見ながらかがみはやうじつ。

未だにソロは猫に包まれていた。

こなた「いや～懐かれてますな～」

ソロ「幻想卿でもマヨヒガで良く猫にくつ付かれていたな…」

カイト「やうなんだ」

ニコア「ナビ、」の猫ちゃん達どうな?

マリオ「そうだな…飼い猫も混ざってるし、それ等も送り届けて後は…そうだな…此処で預かって育てるか…」

困った顔をするニコアにマリオはさつまつ。

その後、手分けして飼い猫を飼い主に渡して行き…他の猫は学園で預かって育てるのであった。

第1-3話・猫猫猫猫…（後書き）

リュカ「と言つて、説でなめ猫さんのリクエスト話でした！」

フォックス「ホントに寒がりだなソロは…」

ソロ「うつせえ…」

クッパ「次回を待ってるのだ！」

第1-4話・トリック・オア・トリーント(前書き)

ルイージ「今日はリクエスト話じゃなくて季節話です」

フォックス「リクエストは次回やるからひとつ待つてくれよ」

ネス「スタート」

第14話・トリック・オア・トリーント

チルノ＆レビイ「トリック・オア・トリーント」

ネス「お菓子くれないと、PKスターストーム当てるよ」

ルイージ「ちょ！物騒な始まり方しないで…」

ブリザード・プリンセスの服を着たチルノと大きくなる前のチルノの服を着たレビイの後の吸血鬼なネスの言葉にルイージがツッコミを入れる。

ちなみにルイージはお菓子をあげる側なので仮装していない。

レティ「はい、2人共」

チルノ＆レビイ「うわ～い」

お菓子を渡すレティにチルノとレビイは喜ぶ。

後ろで同じ様にお姫様な大妖精が微笑んでいる。

チルノ「そんじゃあお菓子を沢山貰いに行くぞ！」

レビイ「負けないぞ！」

大妖精「あつ、待つてよ2人共！」

そう言うと3人は駆け出す。

その後を同じ様に「スプレーした早苗と文、白蓮が後を追つ。

空「美味しいな」

ソロ「そうだな」

お菓子を食べる吸血鬼コスの空にウルトラ警備隊の隊員服を着たソロが同意する。

ソロ自体ZAPの隊員服を着てるので隊員服を変えただけじゃ…とジャンヌは心の中で呟いた。

ピーチ「はいパンプキンケーキ出来たわよ～」

そこにピーチとパンプキンケーキの乗った台を押してマリオとクッパが来る。

ちなみに内のピーチはケーキとお菓子以外の料理は見た目は良いが味は全然ダメで、彼女の手作りをマリオやマリオと同じ位質が丈夫じゃないと倒れてしまう程の××料理人なのだ。

明久「それにしてもデカイね」

ピーチ「そりゃあ大人数ですもの」

目の前のパンプキンケーキを見て冷や汗を搔く明久にピーチは笑つてそう言つ。

その後、パンプキンケーキに食べてメンバーはハロウィンを過ぐし

たのであつた。

第14話・トリック・オア・トリーント(後書き)

「マリオ」と言つて、説でハロウイン話だな」

ルイージ「そうだね」

フォックス「ピーチ姫の料理が出なくて良かつたな」

ネス「だね~」

クッパ「次回を待つているのだ!」

第1-5話・宇宙の振り子とアスレチック（前書き）

スネーク「魔王からのリクトスト話だ」

フォックス「アスレチックか…」

ネス「だね～」

第1-5話・宇宙の振り子とアスレチック

マリオ「此処が真王理事長の言つていたアスレチックか…」

空「凄いな…」

ソニック「やりがいがあるな！」

目の前のアスレチックを見て言つマリオの隣で空が眩き、ソニックはワクワクした顔で言つ。

真王からの情報で宇宙に時計の振子を足場にしたアスレチックがあるとの事でマリオはソニック、空、ソロ、チルノ、カービィ、ジーノ、マロと共にそのアスレチックに来たのだ。

マリオ「それじゃあ早速行くか

空「おひー。」

ソロ「頂上に何があるんだろうな

カービィ「レッシジーー。」

チルノ「お～」

マリオの言葉の後に一行はアスレチックに挑戦した。

空「よひー。」

ソニック「ほつー！」

左右に動く振り子にメンバーは順番にタイミング良く渡り歩いて行く。

段差もあるがそれもクリアしてメンバーは上へと進んで行く。

チルノ「とうちや／＼！」

カービィ「最後の所まで来たね」

元気良くチルノが行つた後にカリビイがそう言う。

シーノー結構広いね……」

「...おおきでいい」

周りを見渡せば、壁ぐシーノにマロが同意した時……

シーリング

一 同 「！」

突如自覚まし時計の鐘の音が鳴り響き、マリオ達が驚く。

? ? ? 「マリオダ！」

? ? ? 2 「マリオダ！」

マリオ「...」の顔は...」

マロ「ええ!?」

ジーノ「おやか」こんな所にリンリンとメビウスがいるとはね…」

鐘の音が鳴り終わった後の其の声にマリオとマロは気づき、ジーノが頭を搔く。

ソロ「へつ？」

「セルバ、何でミライの名前が出るの？」

マロ「あ～実はと云つと僕達が戦つた敵にいたんですよ同じ名前の
敵が…」

それにソロはきょとんとしてチルノは指を頬に当てて首を傾げるとマロがやつ言つ。

ソニック「ん」での大時計と星の絵が描かれた鐘がそうか?」

数m先を見てソーッケはそう語る。

すると、ソーヴィーの見る先に大きな目覚まし時計があつた。

リンクリンク「マリオヲタオセ！！」

リンク2「マリオヲタオセ！！」

音と共にリンリン一が光ると上から大きい黒い星が落ちて来る。

マリオ「散開！..」

その言葉と共に全員が散らばる。

マロ「危なかつたですね」

ソロ「そつだな」

ソニック「ああ言つて出せるんだな」

ジーノ「皆無事か！..」

それ避けた後にそつた後にジーノが聞くと…

カービィ「キノコになつてます」

空＆マリオ「カカシになつた」

チルノ「（ぶー）」

反対側でキノコになつたカービィとカカシになつた空とマリオがいて、同じ方向に避けていたチルノはそれに吹いた。

マリオ達スマハツメンバー（アーカードや銀次除く）は別の世界での状態異常や病気、洗脳や魅力を受けない様にマスター・ハンドから加護を受けているが自分の世界の状態異常は効くのである。

…一部、それによりアレルギーになつてる者がいるが…

マリオは能力があるが自分に害がなければ本人の意思で受け入れられるのだ。

ジーノ「あー…それリンリンになつたね」

ソロ「回復アイテムは…ないな」

マロ「空がいるから魔力回復のエーテルともしもの為の復活ドリンクしかないですね！」

ジーノ「ピーチ姫なら良いけど…」

状況を理解したジーノは頭を搔き、ソロは持つて来たアイテム入れを見て言い、もしもの回復で空がするのでその為のエーテルと復活ドリンクしか持つて来なかつたのだ。

マリオ「だがこの状態でも技は出せる…！」

空「成る程！」

ソロ「それじゃあ一気に決めるぜー！」

マリオの言葉に空が納得した後にソロはライドブッカーを取り出しガンモードにする。

マリオ「ウルトラファイアー！」

空「燃えろーー！」

マロ「カミナリドッカン！！」

ジーノ「ジーノブラスト！」

チルノ「氷龍符！アイシクルドラゴン！！」

ソニック「てやつ！」

カービィ以外のマリオ、空、マロ、ジーノ、チルノが必殺技を放つ
た後にソニックが縦一閃に切り裂くとリンリンとメビウスは消滅す
る。

マリオ「ふう」

空「やつたな！」

カービィ「やつと戻った」

3人が元に戻った後に空はリンリン＆メビウスがいた場所に時計の
針があるのを見つけ、それを拾つ

空「これは戦利品でもって行くか」

ゲキリュウケン「だな」

その後、メンバーは学園に戻ったのであった。

第15話・宇宙の振り子とアスレチック（後書き）

リュカ「と言つて、真王さんのリクエスト話でしたー。」

ネス「時計の振り子なだけに時計つながりでか～」

クッパ「さて、次はどうなるのやら？」

ワリオ「次回を待つてろよーーー。」

第16話・暴走のジャッジ（前書き）

フォックス「龍の骨からのリクエスト話だ！」

スネーク「今回は上のを止める話だな」

クッパ「後、亀鳥虎龍からのゲストも出るのだ！」

ワリオ「と並びで始まるぞ」

第1-6話・暴走のジャッジ

「マリオ」「うわちだー爆音はうわからずるやー。」

「ルイージ」「いきなりすざるよねー。」

「ネオス」「ホントですね」

逃げる人々の間を走りながらマリオ達は爆発の起こる場所へ向かっていた。

謎のアーマーを纏つた何者が街で暴走していると聞いて魔王の指示の元、マリオ達は街に出たのだ。

すると、リュウケンジャーとゼロイードは走っていて、自分と同じ方向に走っているセイタに気づく。

「リュウケンジャー セイタ！」

「ゼロイード も前も来ていたのかー。」

「セイタ 「えつ?ソロモンに会さん?」

話しかけられた本人は顔を向けて驚き、近寄る。

「ビビ「知り合って?」

「W^{キス}」「まあね~」

W「けど句で此処に？」

銀時「この先で暴れてると何か関係あるのか？」

セイタ「あつ、はい、それを止める為に来たんです」

ベビの問いにネスが答え、銀時の問いにセイタはそう答える。

マリオ「成る程、その途中の今、俺たちと偶然会った訳だ」

ゼロイード「んじゃあ一緒にに行ひせ」

セイタ「はい！」

セイタを入れた一同は目的の場所へ向かう。

銀時「ん？誰か戦ってるぞ？」

ネプテューヌ「ホントだ」

目的の場所に近づく中、銀時が前方を見て言い、ネプテューヌも気づく。

そして近づくとWとジョーカー、エターナル、アクセル、オーズが明らかに暴走しているジャッジと戦っていた。

W^{ネス}「ありやあ？」

こなた「Wがもう一人いるね」

W^{リュカ}「別世界のW?」

銀時「まあ、そう言つのはあの暴走してる奴を止めるぞ」

セイタ「ちなみに名前はジャッジです」

神楽「審判あるか?」

新八「名前だからね?」

それにWの後に銀時がそう言つて飛び出し、セイタが名前を言った後に神楽のボケに新八がツッコミを入れた後に銀時が一発ジャッジに入れる。

W「銀さん!-?」

銀時「あつ?」

ジャッジを吹き飛ばした銀時に戦っていたWは驚いて声が漏れ、いきなり呼ばれた銀時はあっけに取られた後にジャッジは起き上がり、銀時に向かって行く。

W^{ネス}「危ないよ」

ダブルドライバー「ソニック! マリオ! -!」

その言葉と音声と共に銀時の前にネスとリュカが変身したWが現れてジャッジを炎を纏ったパンチで殴り飛ばす。

ちなみに分かる様にネスとリュカの変身するWは右側が『音速のハリネズミの記憶』のソニッケメモリの青色に、左側は『爆熱の勇者の記憶』のマリオメモリの赤色になった『仮面ライダーW・ソニッケマリオ』になつたのだ。

ジョーカー「Wがもう一人！？」

エターナル「誰だ？」

W^{ネス}SM「聞く前にあいつを倒した方が早いよ」

アクセル「そうだな」

オーズ「後で聞かせてくれよ

驚いてるジョーカーの隣でエターナルが聞き、WSMがそう言つとアクセルとオーズも同意した後にグラディエーター・アーマーを装着したセイタがジャッジとぶつかり合つ。

ソロ「おいやあ…」

空「はつ…」

そこをソロと空が切り裂いた後にたじろくジャッジをアクセルとエターナルがそれぞれの武器で追撃し…

W^{リュカ}SM「オマケです！」

W「食らえ！」

オーズ「はつ！」

ジョーカー「おりやあー。」

銀時「ほわたつ！」

上記の5人が攻撃してジャッジは吹き飛ぶ。

ジャッジ「うう…」

吹っ飛んだジャッジは起き上がった瞬間に戦場全体に冷気が走り、ジャッジは氷の棺に閉じ込められた。

チルノ「牢獄符！『アイスプリズン』－今だよ－！』

アクセル「良し！」

エンジンブレード「エンジン・マキシマムドライブ－！」

エターナル「やらせて貰うぞ」

エターナルエッジ「ヒートメモリを入れてそれぞ

スペルカードを構えたチルノの言葉にアクセルはエンジンブレードを、エターナルはエターナルエッジにヒートメモリを入れてそれぞれ炎の斬撃を放つ。

それを受けたジャッジは後ずさる。

ジャッジ「うぐう…」

WSM^{ネス}「んじゃあ4人同時のライダー・キック行きますか」

ダブルドライバー「マリオ・マキシマムドライブ!!」

オーズ「ああ！」

オースドライバー「スキャニングチャージ！」

W「行くぞ！」

ジョーカー「ええ！」

ダブルドライバー&ロストドライバー「ジョーカー・マキシマムドライブ!!」

それぞれ必殺技の体制に入った後に飛び上がり、足先にエネルギーを収束させ…

WSM&オーズ&W&ジョーカー「フォースライダー・キック!!」

4人のキックをジャッジはジャッジソードで防ぐが押さえきれずダメージを受ける。

それにセイタはジャッジのアーマーの耐久力がわずかになつたのを確認した後に必殺ファンクションを出す。

セイタ「必殺ファンクション！」

『アタックファンクション パワースラッシュ』

グラディウスの刃先から光の球体が出る。

セイタ「ファアアイナルブレイイーク…………！」

叫びと共に居合い斬りをするように衝撃波を放ち、ジャッジを吹き飛ばす。

ジャッジ「うわあ…………！」

それを受けたジャッジは吹き飛ぶ途中でアーマーは砕け、一人の少年、灰原ユウヤへと戻ると共に倒れる。

空「良し」

ソロ「んじゃあ聞く為に連れて行くか……」

空とソロがユウヤへ近寄ろうとするがその途中で「テクーナースのアーマーを装着した少女が現れ、ユウヤを抱え、煙幕を出す」とどいかへ去つて行く。

ソロ「くそ」

空「連れて行かれちゃつたな……」

それに空とソロは消えた場所を見て言つ。

銀時「んで？お前等何？俺知らないよ？」

終わった後に銀時がWを見て聞く。

それにW達は変身を解く。

アクセルは浜面、エターナルは一方通行、オーズは土郎、ジョーカーは御坂、Wは上条に戻ると離れた場所からユーノとアンクが現れる。

銀時「えつ？ 何でユーノ？」

ネス「つまり、Wの右側はユーノさんでしょ？」

ユーノ「うん、そうだよ」

アンク「たくつ、いきなり知らない場所に飛ばされたと思つたらいいなり戦いとはな…」

頷くユーノの後にアンクがぼやくと上条達を世界の壁が包み込んで元の世界に戻す。

銀時「色々と…変わった奴等だったな」

そう言つた後にセイタと別れ、空達は学園に戻つたのであった。

第16話・暴走のジャッジ（後書き）

リュカ「と言う訳で龍の骨のリクエスト話でした」

スネーク「チルノはチルノで新しいスペルカード作ってるな」

フォックス「だな」

クッパ「次回を待つていいのだ！」

第17話・榎のはらはり料理&ルイージの特別指導（前書き）

スネーク「ゴートピアのリクエスト話だ」

フォックス「榎・絶対な…」

ネス「タイトルにね～」

第17話・桺のはらむり料理＆ルイージの特別指導

桺「あんた達、手伝いなさい」

いきなり、桺が入って来て、その場にいたルイージ、ネプテューヌ、ネプギア、銀時、新八、カイト、ミリア、マロ、ジーノにやつぱり。

銀時「んで、何手伝えつて言つんだよ」

断れば脅して来るのが田に見えてるので諦めて銀時が代表で聞く。

桺「料理よ」

カイト「料理？」

桺の言つた事にカイトが呟いた後桺は理由を言つ。

どうやら楓には内緒で料理を作り、驚かそつと考え、今いるメンバーを巻き込んだ様である。

そんな訳で料理を作る事になつたのだが…

桺フォーゼEUS「やでやるわよ」

ツツコミニメンバー「待て待て待て……」

変身した桺フォーゼEUSにツツコミニメンバーは停止をかける。

桺フォーゼEUS「何よ？」

銀時「何よ？じゃねえよ！何でライダーに変身してやるのー…？」

新八「普通にいらないよね！…ってかライダーの力使い所間違つて
るだろ！今の所！」

カイト「普通に料理出来ないのか！」

柵フオーゼEUS「つるさこわね…」

銀時、新八、カイトの猛烈ツッコミに柵フオーゼEUSは耳を押され
る。

ミコア「どいつか何を作るの？」

ネプテューヌ「それを聞かないと手伝えないよ

マロ「ミコアさんとネプテューヌさんの言いつ通りですよ」

冷や汗搔いて聞くミリアとネプテューヌに柵フオーゼEUSはそうね
…と呟いた後に考え…

柵フオーゼEUS「無難にハンバーグにしようかしら」

ジーノ「成る程…確かに無難だね」

ネプギア「（大丈夫かな？）

柵フオーゼEUSの言葉にジーノは頷いた後にネプギアは不安がり…
それは当たった。

桜フォーゼドライバー「チーンソーオン」

桜フォーゼドライバー「はつ！」

銀時「その為かあああー！」

新ハ「包丁だろ使のはー！」

具材を切るのにフォーゼのチーンソーを使おうとする…

桜フォーゼドライバー「スパイク・オン」

桜フォーゼドライバー「えい！」

マロ「それ潰すであってハンバーグは練るですよーーー。」

ネプギア「それじゃあハンバーグじゃなくて普通に肉潰しですよーーー。
潰すのはスパイクでしてマロとネプギアがツツコウを入れる。

桜フォーゼドライバー「ああ、焼くわよ

カイト「待て待て待てー！ビリーヴザロッドで焼くなー！」

銀時「と言ひかそれなら別のスイッチじゅね？」

ジーノ「言ひてる場合じゃないよ

ビリーヴザロッドを使って焼くとする桜フォーゼドライバーにカイトがツ

ツ「//」、銀時がそう言つてジーノがツツ「//」を入れる。

新ハ「ホント…楓さんの事だと全開ですよ」

桜フオーゼE/S「そりゃあそりでしょ楓はね…」

ルイージ&新ハ以外のメンバー「（新ハ（さん）のばか…）」

新ハ「（すいません）」

新ハの言葉に桜フオーゼE/Sは桜の楓の自慢話を言い出し、それにルイージを除いたメンバーが新ハを見て、新ハは謝った後にルイージが一言も喋つてないのに気づき…

新ハ「どうしましたルイージさー？」

話し掛けようとして顔を見て責める。

それに桜以外のメンバーも顔を見て…後悔した。

鬼ルイージ「…………」

形相が鬼の様になつていた。

銀時「（いやああああああああああ…顔が屁怒組さんの様にこええええええええ…！…！）」

ジーノ「（そう言えば、ルイージは料理を愚弄する様な行為をするとブチ切れしちゃうの忘れてた…）」

ネプテューヌ「（確かにあれ等はね…）」

銀時は悲鳴を上げ、ジーノは冷や汗を搔き、ネプテューヌは怒つても仕方ないと頷く。

鬼ルイージ「桺ちゃん…」

桺フォーゼE S「何よ？」

恐れる中、鬼ルイージは桺フォーゼE Sに話しかけ、桺フォーゼE Sは喋つてる途中で止められたので不機嫌な口調で返すが鬼ルイージの顔を見て後ずさる。

鬼ルイージ「ちょっと…○ H A N A S H I しようか？」

その後、桺の悲鳴が響いた。

後日

楓「あつ、美味いねこのハンバーグ

桺「でしょ？一生懸命頑張ったのよ」

ハンバーグを食べてそう言ひ楓に桺は胸を張る。

だが、次の楓の言葉に…

楓「どうやったの？」

桺は振るえ…

楓「すいませんすいませんすいませんすいません、真面目にしてますので許して…」

楓「どうしたの楓…？」

田を虚ひにして壊れたレコードの様に連續で謝った後こう言つて、楓は驚く。

あの場にいたルイージ以外のメンバーは冷や汗を搔き…

ジーノとマロを除いたメンバー「（絶対料理でルイージを怒らせない様にしよう…）」

そう誓つたのであった。

第17話・桜のはらはり料理＆ルイージの特別指導（後書き）

リュカ「と書いた訳でコートペアさんのリクエスト話でした。」

フォックス「桜…」愁傷様だな

マリオ「ルイージは料理にうるさいからな~」

クッパ「うるさい以上なのだ。」

ネス「次回を待つてね。」

第1-8話・森のキノコヒル用心（前書き）

フォックス「なめ猫からのリクエスト話だ」

マリオ「キノコ狩りだ！！」

ルイージ「兄さん興奮しそう…」

クッパ「やれやれ、始まるのだー！」

第1-8話・森のキノコヒル用心

「マリオ」「～～～」

かがみ「凄く、機嫌ね」

こなた「そりやあかがみ、今田はキノコ狩りだからね」

鼻歌歌つて、機嫌なマリオにかがみはそう言い、こなたがマリオが「機嫌な理由を言つ。

今日は学園行事でキノコ狩り。

場所はマリオがよく行くハナちゃんの森なんだが、伝説のマツタケがそこに生えたとの情報が入ったが本当かはこの田で見ないと分からぬ。

ソロ「どうにうキノコなのかワクワクするな

空「そうだな」

チルノ「楽しみ楽しみ」

3人が話した後にローズタウンにちょっと寄り道（主にジーノがトイドーに会う為）した後にハナちゃんの森へ着いた。

マリオ「さあ、キノコを取りに行くか」

明久「待ってください先生」

笑顔で先に入つたマリオを追いかけて明久とムツツリーは追う。

銀時「ホントにキノコに目がないな…」

ルイージ「まあ、キノコ見つけたら僕に聞いてよ

ネプテューヌ「分かった」

そんなマリオの後姿に呆れた口調で言つ銀時に苦笑したルイージはそう言い、ネプテューヌが答えた後にそれぞれキノコを探しに行く。

ネプギア「ルイージさん、これはどうですか？」

ルイージ「それは… フラワー キノコだね。毒じゃないから大丈夫だよ」

ネプギア「へ～」

新八「ルイージさん、これはどうですか？」

ルイージ「バリバリキノコだね。これも大丈夫だよ」

新八「変わった名前ですね」

ほとんど見た目は同じキノコだがルイージは良く見て指摘して説明して行く。

神楽「ルイージ、これ食べれるアルか（モグモグ）」

新ハ「もう食べてるじゃん！」

ルイージ「ちょ！もし毒キノコだつたらどうするの……」

一齧りした神楽がそう聞き、新ハがツツ「!!を入れた後にルイージが神楽が食べたキノコを見ると……

ルイージ「これ…フライダケだね」

神楽「あッひやひやひやひやひやひやひやひやひやひやひや…！」

ルイージが言つた瞬間に効果が出たのか神楽は笑い出す。

フェイト「こっちも食べてみたら急に涙が…」

ルイージ「ナキダケだね！」

シクシクと涙を流すフェイトにルイージは冷や汗流して言つ。

桂「痺れる～」

フロン「目がグルグルします～」

銀時「次々に当たり過ぎだろーー！」

次々と当たるメンバーにルイージはこけ、銀時が叫ぶ。

コンパ「あわわ、大変です～」

アイエフ「と言つかちゃんとルイージに聞いてから食べなさいよ

神楽「あひやひやうつてこあひやひやひやこれあひやひや食べるア
ル」

アイエフ「うべつーーー。」

慌てるコンパの隣で呆れた顔で言つアイエフに神楽は自分が食べた
ワライダケを食わせる。

アイエフ「何すんのよあはははははははははははははーーー。」

コンパ「あわわ…アイちゃん…」

なのは「なんとかならないんですか?」

怒りながら笑い出すアイエフにコンパは慌てて、なのはが聞く。

ドクター「大丈夫大丈夫、この薬草を飲みたまえ、キノコの毒を解
毒するから」

神楽「助かったアル…にがつーーー。」

フェイエ「苦すぎませんこれーーー。」

ドクター「カプセルにしようと思つたけど…どいつもこの薬草はその
ままじやないと効果が薄いんだよ…」

ギルシア「そりゃあ苦い物が苦手な奴には苦痛だな」

ルイージの代わりに答えたドクターが取り出した薬草を食べて叫ぶ

神楽とフェイトにドクターは頭を搔き、ギルシアはそつまづ。

アイエフ「あー…苦かった…ん?」

苦とに顔を顰めていたアイエフは歩いていてあるキノコに気がつく。

アイエフ「これって…マツタケ?ラッキー 口直しに良いわね」

そつまづてアイエフは来る前に支給で渡されたキノコを焼く為の網付きコンロを出すと付いていた土を取った後に焼く。

コンパ「あれ?アイちゃんそれってマツタケですか?」

アイエフ「そりゃ、わっせの口直しひってね そろそろ良いかな?」

コンパの問いにアイエフは上機嫌で答えた後に醤油で味付けした後にコンロを止めて、ふーふーした後に一口齧る。

アイエフ「うーん、美味しい!」

ドクン!

アイエフ「うーん?」

舌包み打つてアイエフがそつまづた瞬間、突如アイエフの体にショックが走る。

コンパ「アイちゃん!?!?」

ルイージ「どうしたの!?!?」

胸を掴んで呻くアイエフに驚くコンパにルイージが駆け付けて聞く。

コンパ「それが…アイちゃんがマツタケを食べたら急に…」

ルイージ「マツタケを食べて…？」

コンパの言葉にルイージはアイエフが食べていたマツタケを注意深く見る。

そして驚く。

ルイージ「これは…マツタケじゃない…毒キノコだ！」

コンパ「ええ！？」

ピット「危ない！」

叫んだルイージの言葉にコンパが目を開いた後にピットが2人の前に出て鏡の盾を構えて、アイエフの攻撃を防ぐ。

アイエフ「うがああああああ…！」

銀時「おこおいおいおい…いきなりどうしたんだアイエフの奴！？」

ルイージ「ヤジュウダケを食べたんだよ

狼の耳と尻尾が出て野獣の様に吼えるアイエフに銀時は驚き、ルイージが苦い顔で言つ。

ノワール「何？そのヤジュウダケって？」

ドクター「聞いた話によると、人を凶暴な動物に豹変させてしまう恐ろしい毒キノコだよ…マツタケに良く似てるが注意深く見ると野獣の様な絵があるのが特徴だよ…しかし、あれの出来る場所は猛獸が出る場所であってハナチヤンの森…と言うかマリオワールドでは生息していない筈なのだが…」

コンパ「あわわ、そんな毒キノコがあるんですか？」

ルイージ「けれどドクターの言つ通り、僕達の世界にあるのはありますないし、アイエフちゃんの様な耳や尻尾が生えるなんてありえないんだよ」

アイエフ「うがああああああーー！」

ベル「これはー？」
ドクターの説明にコンパは驚き、ルイージがそつ補足するとアイエフは吼えた後に光り輝く。

ヨッシー「変身ー！」

ピット「変身ー！」

ディケイドライバー「カメンライバーー！」

フォーゼドライバー「3、2、1…」

マロ「変身ー！」

ディケイドライバー「ディケイド！」

その光にベールが驚いた後にピットと擬人化したヨッシーとマロが
それぞれ、ピットは仮面ライダー・ディケイド、ヨッシーは仮面ライ
ダー・龍騎、マロはフォーゼに変身する。

フォーゼ「宇宙キター————！」

龍騎「仮面ライダー龍騎——アドベントー」

ディケイド「さて、行きますか」

3人を先頭に警戒すると光が晴れると…

アイエフ「ぐるるるるるー」

銀髪となり、野獣をイメージするレオタードを纏つたネプテューヌ
達が女神化した際に装着すると同じプロセッサを纏つたアイエフ
がいた。

スネーク「あればアイエフか？」

チルノ「と言つかあれってネプテューヌ達が女神化した時に装着し
てるのだよね？」

銀時「おこおい、ビツビツ事だ？」

ネプテューヌ「アイちゃんが女神化した！？」

その様子にメンバーは驚きを隠せないが…

アイエフ「が、うつー」

龍騎「くつー」

ドラグバイザー「ガードベント」

駆け出してくるアイエフを龍騎はドラグシールドで防ぐ

フォーゼ「ライバー」「ウインチー・ウインチ・オン」

フォーゼ「このー」

ディケイド「ライバー」「アタッククライドー・バインドー」

ディケイド「は、うつー」

アイエフ「ぐつー」

すかさずフォーゼはウインチモジュール、ディケイドはライドブッカーゴムから放った光の鎖でアイエフの動きを止める。

アイエフ「ぐるああああああ！」

ルイージ「コンパちゃんー早く薬草をー」

コンパ「はいーこれ食べてアイちゃんー」

なんとか拘束を解こうと身動きするアイエフにルイージがそう言ご、

コンパは薬草を持つてアイエフの口の中へ入れる。

アイエフ「キャインー?」

コンパ「苦いですけど我慢してくださいー!」

暴れるアイエフにコンパはそう言ってなんとか飲み込ませると…

アイエフ「あつ、あれ?」

野獣の様な感じに暴れていたアイエフはきょとんとした顔で周りを見る。

コンパ「アイちゃん戻ったんですね!」

アイエフ「あれ? コンパ…って何コレー?」

拘束を解かれたアイエフにコンパは抱き付き、本人はコンパを見た後に自分の体を見て驚く。

マリオ「どうしたー?」

明久「騒がしいけど何があったの?」

そこに大量のキノコを抱えたマリオと明久、ムツツリー二が来る。

ルイージ「ビーストハート?」

「イストワール、『はい、アイエフさんがなつた姿と野獸で調べて見たら見つかりました』

マリオ「ビースト・ザ・ハード以外に野獸の女神がいたとはな…」

学園に戻った後にキノコ焼き祭りをしている間、ルイージとマリオはイストワールにアイエフの女神化した姿を聞いていた。

イストワール「調べた所、野獸だけが生息する世界に降臨していた女神でその世界に侵略して来た者と戦い続け、最後に自分の持てる力の全てを使い、その世界が侵略されない結界を作り、滅びた様です」

マリオ「セレナのヴォルフレイムハートと似た感じか…」

イストワールの説明にマリオは顎を摩つてそう言つ。

ルイージ「けど…何でヤジュウダケにその女神の力が…」

イストワール「アイエフさんが食べたヤジュウダケを調べるとどうもさつき行つた世界に群生していたものでマリオさん達の世界にどう行つたのかはまだ調べてる途中です」

マリオ「全ての力を使って結界を作る際にその力の一部がヤジュウダケに入つたんだろうか…それとも自分の後継者を作るために注いだか…真相はその女神様だけが知るだな」

腕を組むルイージにイストワールは困った顔をし、マリオは推測を言つて頭を搔く。

その後、マリオ達もキノコ焼き祭りに参加したのであった。

第1-8話・森のキノコに心(後書き)

リュカ「と言う訳でなめ猫さんのリクエスト話でした」

スネーク「何かほのぼのの筈が微妙にシリアルズは言つたな・」

なぜかこうなつてしまつた・

フォックス「しかも出てきたキノコがマリオRPGの以外にカービイのマンガに出たのを微妙に変えたのだな・」

リンク「特にヤジュウダケですね」

ネス「次回を待つてね・」

第19話・始動！グレートマコナマンX-（前書き）

スネーク「魔王からのコクエスト話だ」

フォックス「これはな…」

ネス「驚きだよね～」

第19話・始動！グレートマリオマンX！

銀時「んで、見てもらいたいもんってなんだよ？」

タバネ、ドーンが見てもらいたいものがあるから校庭に来てほしいと言われ、集まつたメンバーを代表して銀時が言う。

タバネ「うふふ、良く見て置いてね！」

五二、政治小説の歴史—その二

タバネとドーンがメンバーを前に言った後に2人同時にボチッとな
つと取り出したスイッチを押すと目の前の地面が左右に開き…

ルイージ「はいっ！？」

リンク - カニツ !? (000)

「かすがマジですか？」

現れたのにメンバーは驚く。

タバネーこれど！私たちが作った口ボ！」

「グレートマリオマンX! である...」

それを前にタバネとドーンは自信満々に言つ。

マリオ「すつづけにな...」

銀時「つてか、良いのか?」んなの理事長に言わすて?」

真王「その心配は無用だ」

感嘆の声をあげるマリオの隣で銀時が見上げながらそう聞くと真王がやつて来て言ひ。

ネプテューヌ「理事長」

ルイージ「どうした事ですか?」

真王「俺が頼んだんだ。学園には守護神的な奴がいるだろ? だからタバネビドーンに頼んでな」

空「んで、何でマリオをモチーフにしたんだ?」

ルイージの問いに真王が答えた後に空が聞く。

真王「それは…マリオ好きだし」

マリオ「なんか照れるな~」

その言葉にマリオは頭を搔く。

ビードーン「では詳細を言ひのであーるー最初は頭のマリオマンヘッド!」「クピットである。入口は口から転送ワープを入れるのである。帽子をとると髪の毛まで表現されているが、無くなれば力が無くなるであーる」

マリオ「そこまで再現されてるんだな…」

タバネ「次は胸のマリオマンボディ！パーツそれに超合金で構成してて、炎系耐性や防水加工も完ぺきなんだよ～」

スネーク「ほ～」

ドーン「腕のマリオマンアームのグローブは超硬いクリスタル製！手のひらから炎が出せるようになり、得意のファイヤーボールも出せるのであーる…」

ソロ「凄いな！」

タバネ「次は足のマリオマンフット！総重量100トン以上にも関わらず高いジャンプが出来るんだよ～ちなみにジャンプ後に地震が発生しないように工夫がしてるよ～ちなみにブーツもクリスタル製だよ～」

新ハ「どういふ工夫なんですか？」

ドーン「そこは秘密でーる！最後のマリオマンマントは文字通りマントでーる。素材はマリオが使用しているマントを大きくさせた感じなのであーる！ウルトラマンの様に飛行が可能であーる…」

チルノ「空も飛べるんだ」

レヴィ「おお！凄いぞ！強いぞ…かつこいいぞ…！」

タバネとドーンの説明にそれぞれ関心の声を上げた時…

圭一「うわーー。」

レナ「何々ー?」

かがみ「あそーー。」

いきなりの攻撃に全員が驚くと、かがみが上を指す。

すると、空からナックル星人とブラックキングが降りて来た。

銀時「おいおい、いきなりだな！」

ソロ「此処は俺が！」

マリオ「…理事長、グレートマリオマンXは始動できるか?」

真王「…ぶつけ本番になるが始動出来る」

それを見て銀時が叫び、ソロが出ようとしてマリオが止めて真王に聞くと、そつ返す。

マリオ「ならば俺が乗るつ

真王「良し—グレートマリオマンX!始動!」

タバネ&ドーン「了解(である)ー。」

マリオの言葉に真王はそつ指示して2人は答えた後に別のスイッチ

を取り出して押すとグレートマリオマン×の目が輝いた後に口から転送ワープが出て、タバネヒドーンからマニコアルを貰ったマリオはそれに包まれてコックピットへ乗り込む

マリオ「んじゅあ行いづばー・グレートマリオマン×-」

一通り読んだ後にそづりと同時にグレートマリオマン×は駆け出す。

ナックル星人「何だあれはー!?

マリオ「マントアタック!」

ナックル星人「ぐおつ!-」

驚くナックル星人にグレートマリオマン×はマリオマンマントを使ってのマントアタックを炸裂させる。

マリオ「続いてマリオマンアッパー!」

ナックル星人「ぐあつ!-」

続けざまに昇龍拳なマリオマンアッパーでナックル星人を浮かび上がらせるとヒーフォルトでコインが出る。

ルイージ「そこも細かくしてるのでね…」

ドーン「当然である」

それにルイージは冷や汗を搔き、ドーンは胸を張る。

「マリオ、今度はお前だ！」マリオマンスマッシュ！――」

続いて来たブラックキングにスマブラの横スマッシュのグレードマリオマン×バージョンのマリオマンスマッシュを叩き込む。

後ずさつたブラックキングは口からヘルマグマを放つが…

「マリオ、効くか！」マリオマンマント返し！――」

グレー、マリオマン×マリオマンマントを外してそれてみつヘルマグマをブラックキングに返す。

「マリオ、んでもう一つお返しのマリオマンファイヤー！――」

手に炎を集めて放つグレーとマリオマン×マリオマンファイヤーでブラックキングを攻撃する。

「ナックル星人、調子に乗るな！――」

「マリオ、悪いが調子には乗ってない！勝負は乗じ過ぎない方が良いからな！――」

駆け出して来るナックル星人にマリオはそう返すとマリオトルネードのグレー、マリオマン×版のマリオマントルネードで跳ね返す。

「マリオ、決めるぞ！マリオマンインパクト！」

マリオマンスマッシュより最大限に溜めた後、突進して来るブラックキングのお腹に炸裂させる。

それによりブラックキングはさつきより吹き飛んだ後に爆発した。

ナックル星人「おのれえええええ！」

マリオ「これでトドメだ！グレートマリオマンX！真・最終奥義！
真・GグレートマリオマンX・MマリオマンX・XマリオマンX・Fファイナルドライブ・Dドライブ！」

両手を広げて駆け出して来るナックル星人にグレートマリオマンXは掴んだ後にナックル星人を空高く投げ飛ばし、両腕から炎を作り出して空へ放ち、それをその身に受けて飛翔する。

そして全身に纏つた炎でナックル星人に一撃を『』える。

ナックル星人「ばっ、バカなああああああああああ！」

グレートマリオマンXが着地した後に時間差でナックル星人は空で超爆発した。

それを見届けた後にグレートマリオマンXはピースする。

こなた「いや～色々と凄かつたね」

満足げにいる真王の隣で感嘆の声をこなたが上げる。

その後、学園の守護神としてグレートマリオマンXが誕生したのであった。

第19話・始動！グレートマリオマンX！（後書き）

リュカ「と言つてで真王さんからのリクエスト話でした」

スネーク「色々と技を一つ除いて出したな」

フォックス「細かく考えられたからな。そこ等へんは出したいって
言つ作者の意地だな」

ネス「つてか、何でナックル星人とブラックキング？」

クッパ「宇宙からの侵略者で白羽の矢が立つたそうなのだ」

ネス「なる…次回を待つてね」

第20話・大演奏！ウルトラセッション！！（前書き）

スネーク「光を継ぐ者からのリクエストだ」

フォックス「演奏会らしいな」

ネス「どうなるのやら～」

第20話・大演奏！ウルトラセッション！－

とある日の超次元学園

ソロ「よう光ー」

光「久しぶりですソロさん」

校門前でソロと光は握手する。

その後ろで付き添いで来た一夏達が超次元学園の大きさに驚いていた。

一夏「でかつ…」

簞「ホントだな」

鈴「IS学園に負けてないわね…」

シャル「学園も凄いけど…」

セシリア「テカイ…ロボットですかね」

ラウラ「ホントだな」

他にもグレートマコオマンXに驚いていた様だ。

ソロ「なあ、どうせなら演奏会しないか？」

光「演奏会？面白そうだね。それで何を演奏するの？」

一 夏達が驚いている間にソロの提案に光はそう言つた後に聞くと…

早苗「どうせなら、ウルトラシリーズの歌を演奏して見てはどうか？」

ソロ&光「うわー！」

みよんと出て来た早苗にソロと光が驚いた後にチルノと白蓮、文、大妖精、revイ、空、カービィが来る。

チルノ「早苗～いきなりどこか行かないでよ～」

早苗「ごめんなさいね」

一 夏「つてか？ウルトラシリーズの歌つて？」

ふんふんするチルノに早苗が謝つた後に驚いていた一 夏が早苗に聞く。

早苗「これを見れば分かります！」

そう言つて早苗が取り出したのは… 2枚のDVDであった。

幕「ウルトラマン ヒックソングヒストリー？」

鈴「レジョンドビーロー編」「コービーロー編？」

光&ソロ「（つてかそれ何？）」

早苗「紫さんに頼んで行つた世界で買つたんですよ」

チルノ「あたい達も見よつと思つた所で光達が来たんだよね～」

筈と鈴がそれぞれ題名を言つた後、光とソロはそれに疑問詞を浮かべ、早苗がそう言い、チルノがそう言つ。

その後、光達も交えて見るのであつた。

一夏「色々と良かつたな！」

ソロ「何か…」
「…ぱずかしいな…」

光「（別世界の僕に他のウルトラマン…他の世界でも守り抜いていた人達がいたんだな…）」

鈴「それで、するのは良いけど…楽器どうするの？」

セシリ亞「私はヴァイオリンは嗜みで出来ますが…」

ラウラ「…」

数分後に見終え、一夏は興奮して言い、ソロは照れて頭を搔き、光はさつきのティガやウルトラマン、ゼロ以外のウルトラマンを思い浮かべてしまいじみと呟いてる隣で根本的な事を言う鈴にセシリ亞はそう言つて、ラウラは無言で目をそらす。

ソロ「練習すれば大丈夫だろ？」

空「そうだぜ」

カービィ「それじゃあ僕が…」

空&ソロ「お前は止めろ」

ヒョウリュウケン「賢明な判断だな」

ゲキリュウケン&ザンリュウジン「それには同意だな」

そんなメンバーにソロと空が言い、カービィが立候補しようとして2人に止められ、ヒョウリュウケンがそう言い、空の魔弾龍、ゲキリュウケンとカービィの魔弾龍、ザンリュウジンは同意する。

その後、一夏と筈はギター、ソロはドラム、光はフルート、セシリアはヴァイオリン、ラウラと鈴はボーカルを勤め、演奏が得意な人達に教えて貰つた後に演奏会が始まった。

演奏するのはウルトラマンティガの『TAKE ME HIGH』

R

銀時「やるな」

ネプテューヌ「本当だね」

その様子に銀時は感嘆の声をあげ、ネプテューヌが同意した後に演奏は終わり、大量の拍手が来た。

ソロ「そんじやあ次のをやるか！」

光「えつ？ 次は何をやるの？」

ソロの言葉に光は驚いて聞く。

ソロ「今度はウルトラ系ライダーでの演奏会だ！」

マリオ「んじゃあ使えソロー！」

ソロの言葉にマリオはカードを投げ渡す。

それを受け取ったソロはテキストを読む。

ソロ「『ビックバンタイムの始まりだ』」

読み終えると共にソロの腰にゼロバッклが装着される。

ソロ「KAMEN RIDER！」

ゼロバッкл「ライダーアップ」

音声の後にソロは仮面ライダーゼロに変身する。

一夏「それって…」

竇「ウルトラマンマリオ…」

ゼロ「これは俺を元にしたウルトラ系ライダー第1号だ」

ゼロブレスレッド「ウホポンライダー・ティエンドライバー！」

驚く一夏と篠に、ゼロはやつしゅうじテイエンドライバーを出した後に
一枚のカードを装填する。

「ティエンドライバー」「カメンライド・ウルトラ6兄弟!」

音声と共に、ティエンドライバーから光の三原色が出た後に、それ等は
6つの姿を出すと、それぞれウルトラ系ライダーのゾフィー、ウルト
ラマン、セブン、ジャック、ヒース、タロウのウルトラ6兄弟にな
る。

ゼロ「光もカードを使え、お前なら変身出来る筈だ」

光「わ、分かった」

ゼロにセツヒ言われ、光はカードを見て集中する。

光「変身」

そして、言ひと同時にカードが輝き、光の姿は仮面ライダーティガに
変身していた。

ティガ「出来た…」

ウルトラマン「それでは演奏会をやひづじやないか」

ヒース「よしあー熱く行け! ゼー!」

ジャック「へマをするなよ」

自分の手を見るティガに、ウルトラマンは肩を叩いてそつ言ご、ヒー

スはギターを持って言い、ジャックが釘を刺す。

そして演奏するのは『ウルトラマン物語～星の伝説～』

それで大いに盛り上がった後、光たちは帰つたのであつた。

第20話・大演奏！ウルトラセッション！！（後書き）

ネス「と訳で光を継ぐ者さんのリクエスト話でした」

スネーク「ウルトラマンなだけにウルトラソングか」

リュカ「良かつたですね」

クッパ「うむ…次回を楽しみにしてるのだ！」

第21話・秒殺の皇帝と暗黒のLBX（前書き）

スネーク「龍の骨からのリクエスト話だ」

フォックス「今回はジンと共に…」

ネス「スタート！」

第21話・秒殺の皇帝と暗黒のLBX

ジン「へり…ビートいるんだ…」

エンペラーM3アーマーを纏う秒殺の皇帝、海道ジンは等身大の暗黒LBX『ダークネス・レイ』を捜していた。

それは殺戮兵器であり、見つけなければ大量の被害が出るのも時間の問題である。

ジン「（やはり1人では難しいか…ん？あれば…）」

眉を潜めてそう呟いたジンの皿に入ったのは…

同時期、空達も街を歩いていた。

空「マリオもくれば良かつたのにな

ルイージ「やうだね」

ソロ、チルノ、カービィ、チルノ→ゼズとレティにレヴィ、シユテル、ロード、ソニック、明久、ムッシュリーと一緒にながら空とルイージはそう会話する。

パンツ泥棒事件があり、早苗、白蓮、文や他の生徒が恥ずかしい事になつたので気分直しこと街に繰り出したのだ。

なお…マリオは…

ディケイド激情態「覚悟は出来てる?」

マグナリュウガノンオー「てめえら... フランとお空の下着を盗んだ事を後悔しろよ」

洛斗&恋奈「ひいいいいいいいいいいい...」

マリオ&ガノン「やれやれ」

上記2人によりさつきも魔王に説教された犯人組がやらなきゃ良かつたなと思う程のフルボッコをガノンと共に見ていた。

空「んでどに行く?」

ソロ「そうだな...」

そんな事を知らないメンバーはどこに行こうかを考えてる時...

ジン「そこの人達」

そんなメンバーの前にジンが現れた。

チルノ「誰あんた?」

ジン「僕は海道ジン、セイタ君の知り合いだ」

空「セイタの?」

チルノの問いかにジンは答え、空の言葉にジンは頷いた後本題を語つ。

ジン「君達に頼みがあるんだ。僕と共にとある暗黒ＬＢＸを探して破壊して欲しい」

そつ言ひつとジンは空達に自分の探しているダークネス・レイの詳細を話す。

外見は『鉄拳6』のアザゼルをモチーフにした様なＬＢＸでどこから作られたかは不明だが、殺戮兵器という事だけは確かであり、武器は両腕についている鉤爪『ブラッディクロール』。

自動で動いている為、放つておけば街の住人の犠牲が出てしまう恐れがあるとの事でさらにダークネス・レイの必殺ファンクションであるキリング・クローブラッドはとても危険で直撃を喰らった者は、致命傷になり、その命は危うくなるとの事…

文「それはやばいですね」

白蓮「確かにほって置けないです」

ジン「その通りだ…今は探ししているんだが…」

シユテル「ならばサーチして見ましょ」

文は眉を潜め、白蓮はそつ言い、ジンが同意した後にそつ言ひつとシユテルはサーチをすると周りを調べる。

シユテル「見つけました。調べた範囲で人以外の反応があり…誰かと戦闘中です」

シユテルがサー チした場所で…

リュウセイオー「はつ！」

幽香「サトシ離れなさい！」

天子「当たるわよ！」

サトシが変身したリュウセイオーが幽香と天子の援護の下、ダークネス・レイと戦っていた。

天子「要石！『カナメファンネル』！…」

幽香「花符『幻想郷の開花』」

リュウセイオーが離れると共に2人はスペルカードを発動するとダークネス・レイを攻撃する。

ダークネス・レイはそれをブラッティクロードで防ぐ。

幽香「なかなか甚振り易い奴ね」

天子「攻撃もサトシの攻撃の方が快感だわ！」

リュウセイオー「何言つてんのだよ2人共！」

セイリュウケン「サトシの教育によるしきくないから程々にしてくれないかな！」

幽香と天子の言葉にリュウセイオーとセイリュウケンがツツ「//」を入れた後に周りの景色が少し変わり、変身した空達が来る。

景色が変わったのはジュネッシュフォームになつたネクサスがメタフィールドを展開したからだ。

リュウケンドー「サトシー」

リュウジンオー「お前も来てたのか」

リュウセイオー「嘘ー。」

レティ「ここにちわ幽香」

幽香「いきさばんようレティ、それに王様」

ロード「むう……」

レヴィ「ドモいるのかー。」

天子「ドモじゃないわ！快感を感じるのはサトシと幽香だけだからねー！」

シコテル「それがドモなんですよ。」

サトシと幽香、天子に気づいたメンバーが話しかける。

ネオス「ジン君、あれが君の言つていた？」

ジン「ああ、ダークネス・レイだ」

ネクサスＪＦ「…………」それで被害は出ないから全力で行くぞ」

それを尻目にネオスは目の前のダークネス・レイを見て聞き、ジンが頷き、ネクサスＪＦがそう言ってダークネス・レイを見るとダークネス・レイの目が光だし、ブラッディクロードが伸びる。

ジン「いけない！奴の必殺ファンクションが来るぞ！」

それにジンが叫んだ後にダークネス・レイは狩るようにブラッディクロード振り回すキリング・クローブラッドがメンバーを襲う。

チルノ「うひやあ！」

レビィ「おおつと！」

それぞれ回避するがチルノの服とレビィのBマークが少し破ける。

レティ「ちょっと悪戯過ぎるわよ」

幽香「そうね」

キリング・クローブラッドが終わつた後にレティと幽香が剣と傘でダークネス・レイを吹き飛ばした後にそれぞれ先をダークネス・レイに向けスペルカードを取り出す。

幽香「合わせなさい」

レビィ「そちらこそ」

そう言つてお互に笑つた後に宣言する。

幽香「元祖『マスタースパーク』」

レティ「吹雪符『ブリザードスパーク』」

その言葉の後にレティは吹雪の光線、幽香は7色の光線を放ち、それが途中で一つとなるとダークネス・レイを飲み込む。

収まつた後には、機能を停止したダークネス・レイが火花をバチバチさせていた。

リュウケンドー「やつすが……」

ゼロイド「だよな」

それを見てリュウケンドーとゼロイドは代表で言つ。

その後、ジンと別れたメンバーはレヴィがダークネス・レイを連れて帰りたいと言う事でマリオにより生徒で呼ばれたサトシと天子に警備員でお花係の幽香と共に空とソロが運んで学園に戻り……

レヴィ「行くぞ！僕の2番目の相棒レインと新しいフォーム！レイフォームで今度こそ勝つ！」

？？？『頑張れお嬢！』

チルノ「負けないぞ！」

後日、ドーンとタバネにより、どうせつけてやつたのか分からぬが

ダークネス・レイをL BXからユニゾンデバイスへとなり、名前を
レインフォース（通称、レイン）に変えてユニゾンしたスプライト
フォームにダークネス・レイを模した胸当てと足にアンクレットを
装着して、青く染まつたブラッディクロードを装着したrevイガチル
ノと弾幕勝負をしていた。

なお、関係ないが百合な人達が幽香に話しかけ、私はサトシ以外に
友達以上の好きはないわと言った幽香によりメタタメタにされたの
は些細である。

第21話・秒殺の皇帝と暗黒のLBX（後書き）

ネス「と訳で龍の骨さんのリクエスト話でした」

リュカ「と…増えたね！」

スネーク「そうだな、そしてレイは新しい相棒とフォームを手に入れたな！」

フォックス「そうだな！」

クッパ「次回を待っているのだ！」

第22話・新縁のハンター（前書き）

スネーク「ちよいとリクエストから外れて真王となめ猫の2人と同期長編を始めるぞ！」

ネス「リクエストは終わるまで待つてね～」

ルイージ「それじゃあ始まります！」

第22話・新縁のハンター

平和な日々を満喫していたある日、学園に革命組織ブレイベルから宣戦布告の書状が送りつけられる。

『表では善意と自由をうたいながら、核を絶対なる力と秩序で固めている権力者とその学園に革命として宣戦布告する。理事長及び多くのハードも含め、その秩序を破壊し、貴殿達の絶対なる力と秩序によつて自信と意志をなくした者達への希望を見出す。ただし、これは支配するための戦いではないことだけは伝えておく。覚悟されたし

総長 ダッシャー・ガルネイバル』

この書状を生徒達に公表した所、カイトとミリアがダッシャーと革命組織を知っていた。彼らは、権力と力をふるつて街や人々を食い物にして独裁を続けている者達や組織を倒す者達で、有名ではないがたくさんの人々を助けてきている組織だと言つ。カイト達も以前両親と共に、ダッシャー達と知り合つて一時期共に戦つたことがあるらしい。そのダッシャー達が、学園に対して革命を宣戦布告することが信じられず、噂を聞いてないはずがないとも言つ。そんな時、革命組織の者達がいたる場所で騒ぎを起こして来たのだが、それに乗じてデニーの傭兵団とエリート学園が合併した運命肅清軍までも悪さをしているという情報が入つた。カイト達は悩みながらも、それぞれ騒ぎの阻止に向かうのであつた……

森林で出来たパークで沢山の人で賑わっているのだが、今は革命組織により占拠され、誰もいない。

そこにルイージは、ヨッシー、カービィ、オリマー、ネス、リュカ、フォックス、ピット、オリマー、ルカリオ、スネーク、冥王、ダークエリザベス、ギル、ガノン、リンク、シユテル、ロード、マロ、ジーノ、サトシ、天子、幽香に丁度ギルの様子を見に来ていた黒狼とアンク、ショカと共に来ていた。

ルイージ「まつたく兄さんは…」

ダークエリザベス『あいつはホントにキノコ好きだよな…』

敵を倒しながらルイージは別の場所にキノコオオオオオオ！…！と叫びながら向かったマリオに頭を抱え、走りながらダークエリザベスが呆れて言う。

オリマー「それにしても…我々、やつとまともな出番だよね…」

冥王「確かに私たちあまり出てなかつたもんね」

ネス「はい、事実だけどメタな発言しない」

ギル「ふつ？」

リュカ「ネスこそ…」

思わずポツリと言うオリマーにギルは首を傾げ、冥王も同意してネスがツツコミを入れてリュカも入れる。

オーズ「それにしても、此処を占拠してゐる人はどこにいるんだろう
ね」

アンク「こつちが知りたいもんだ」

オーズTMC「かつか！」

リンク「アンク、あんまり火を飛ばすなよ、此処だとあつと言つ間に火事になりかねないからな」

オーズに変身した黒狼はトランクローを振るつてそう咳き、アンクは炎を纏つたパンチで吹き飛ばし、オーズタマシーコンボに変身したショカも同意する様に頷くと森の中なか故郷と同じ口調のリンクがそう注意する。

ルカリオ「…どうやら相手から來てくれた様だぞ」

フォックス「！離れる！」

サトシがいるので擬人化しているルカリオの言葉に上を見ていたフオックスの言葉にメンバーは其の場を飛び去るといった場所に何かが大量に刺さる。

ロード「何が起つたのだ！？」

天子「これ…木の枝じゃない？」

幽香「そうね…それがあなたの能力かしら」

驚くロードに天子が刺さっていた奴を抜いてそう言い、幽香が上を見て言ひ。

すると、メンバーの前にあつた大樹の枝に弓を手に持つた草をイメージするワンピースを着たおつとりとした女性が現れた。

女性「流石は噂の方々…坂田 銀時はいないようですね…」

ピット「あなたが此処を占拠した親玉ですか？」

メンバーを見下ろして咳く女性にピットが聞く。

女性 フォレストガール「いかにも、私は革命組織のフォレストガールと申します」

ルイージ「あなたが…」

サトシ「あの！何でブレイベルのボスであるダッシャーって人はこんな事をするんですか！」

自己紹介するフォレストガールにサトシはそう聞く。

フォレストガール「そこは流石に話せませんが…私個人の目的はあなた方と戦い、自分の実力を再確認しようと革命軍に入りました」

スネーク「流石に本命は言えないよな…」

ジーノ「しかも…話し合いも無理そうだね」

フォレストガールの言葉にスネークは頭を搔き、ジーノは腕を組ん

でそう言つ。

フォレストガール「では…新緑のハンターと言われた私の実力再確認の為、参らせて貰います」

静かにそう言うと地面に降り立ち、前に手を置くと付いた所から木が出現し、出現した木から雨の様な木の枝が放される。

フォーゼ「やばい！」

フォーゼドライバー「シールド・シールド・オン」

それにフォーゼに変身したフォーゼはシールドモジュールを出現させるとしゃがんで防ぐ。

冥王はレイジングジャベリン・バーストを回して防ぐ。

他にもシユテルとロードがプロテクトを張つて、数人が後ろで隠れる。

リンク「変身！！」

ブレイバッкл「ターンアップ」

そしてリンクはブレイバッклから出現したオリハルコンエレメントで守った後に通り抜けてブレイドに変身してフォレストガールに斬りかかる。

それをフォレストガールは避けた後に弓を引いて矢を放つ。

ピット「『』使いはあなただけじゃないですよー！」

その放った矢をピットは神『』から放った矢で打ち落とす。

ガノン「いけ！オリマー！」

オリマー「クッパ君の真似かい！？」

フォレストガール「ぐつ！」

そこにガノンが投げたオリマーがフォレストガールのビーツぱらに直撃し、その反動でオリマーはガノンの元に戻った後：

ガノン「もう1回！」

オリマー「分かってたさー！」

ブレイラウザー「キック、サンダー、ライトニングブラスト！」

ブレイド「ウハハハハハハイー！」

オーズドライバー「スキニングチャージ！」

オーズ「せいやあああああーー！」

フォレストガール「がはつ！」

もう1回投げられたオリマーとブレイドのライトニングブラストとオーズのタトバキックが決まり、フォレストガールは背中から地面に落ちる。

フォレストガール「くう…」

幽香「はい、そこまで」

アンク「終わりだ。流石にこの大人数じゃあ相手が悪かつたな」

手を地面につけ様とするフォレストガールの腕をアンクと幽香は掴んで立ち上がりせる。

天子「見るからにあんたの能力って手を付けた所から木を出現させる様だけど、手を捕まれば使えないみたいね」

フォレストガール「分かりますか…完敗です。私もまだまだですね」
フォーゼ「けど、流石に1人や5人以下じゃあこっちが負けてたど思います」

シユテル「だからあなたの実力は申し分ありません」

天子の言葉にシユテルとロードにバインドをかけられたフォレストガールは苦笑した後にフォーゼとシユテルがそう評価する。

フォックス「まあ、これで此処は制覇したな」

ダークエリザベス『だな』

冥王「それじゃあ戻るの」

スネーク「もちろん、こいつも連れてな」

フォックスが纏めて、冥王とスネークの後にフォレストガールを連れて学園に戻ったのであった。

第22話・新縁のハンター（後書き）

ネス「次はマリオ達の方だよ」

リンク「どうなるんでしょうね」

ガノン「まあ、マリオがな……」

黒狼「次回を待つてくださいー。」

第23話・幻影回遊者（前書き）

ソロ「次は俺たちの方だな」

空「だな」

チルノ「行こうー！」

ルイージ達がフォレストパークで戦っている頃、マリオは空、ソロ、ドクター、クッパ、ピーチ、ファルコン・ハート、ソニック、銀次、アーカード、明久、ムツツリーー、エリア、チルノ、ヒヨウリュウケン、お空、フラン、文、白蓮、早苗、大妖精（大ちゃん）、レイ、レビィ、誠、言葉のメンバーと共にキノコ博覧会に来ていた。

キノコ博覧会

そこには様々な次元や世界に存在するキノコが大量に展示されてる建物でキノコマニアには大好評の場所なのだが運命肅清軍の傭兵团により占拠されたのだ。

それにより

その1人であるマリオは大変怒つてました。

誠「すつ、凄い気迫だな！」

言葉「そつ、そうですね。」

敵をばつたばつたとなぎ倒すマリオにあんまり喋つてない誠と言葉はちょっと引く。

ソニック「さつすがマリオだな」

ソロ「あんまり怒らないが…流石にキノ」「となると変わるな」

空「ホントだよな～」

ピーチ「ホントマリオはキノ」「呑よね～」

クッパ「うむ」

レティ「あらあら」

ドクター「ホントにマリオ君は…」

スマハツメンバーはそんなマリオに苦笑して進んでいた。

タレ銀「けど、大丈夫かな…」

アーカード「そうだな…」

明久「敵側ですか？」

ムツツリー「…………敵側だな」

大妖精「たつ、確かにそうですね～」

エリア「あの様子じゃあ圧倒的じやないかい？」

文「ですよね～」

白蓮「マリオさん、ちゃんと手加減するんでしょうか？」

早苗「無理だと思いますよ..」

チルノ「マリオは練習以外は何でも全力だもんね！」

レガリ「ハニカム」

「うちはこっちで敵を心配していた。

誠「あつ、あの有意義に話して良いんですか？」

言葉「そり、そりですよ」

「… ファルコン・ハート 「んじやあ聞くが…あの様子を見てマリオがやられると思うか?」

誠と言葉の言葉（駄洒落ではない）にフランとお空に抱き付かれた
ファルコン・ハートがマリオを指して聞く。

それに2人は見ると…

後ろから襲い掛かる敵もなんのそのーと言ひ感じにマリオは簡単にあしらっていた。

誠&言葉「やられないと思ひます」

「アルコン・ハート」「だろ?」

お空「うひゅ

フラン「だね

異口同音で答えた2人にファルコン・ハートは肩を竦め、お空とフランは同意する。

そして奥に着いた。

そこには白のゴスロリを着た少女がいた。

ソロ「お前が此処を占拠したボスか？」

少女 イリュージョン・マッシュュリア「そうだよ～イリュージョン・マッシュュリアって言うんだ～よろしくね～」

マリオ「ならば素直に投降してくれれば手荒にしない」

ソロの問いに答えたイリュージョン・マッシュュリアにマリオはボキボキと手の骨を鳴らしながら静かに呟つ。

それにイリュージョン・マッシュュリアはゾクツとするがそれを振り払う様に首をブンブン振った後に…

イリュージョン・マッシュュリア「いやだもん！こんな楽しい事を止められないもん！」

そう言うとイリュージョン・マッシュュリアは数人に分かれた…本人はそうしたと思った瞬間…

イリュージョン・マッシュニア「あれ?」

何時の間にかマリオに捕さえられており、田の前にパンチが迫つていた。

イリュージョン・マッシュニア「ひつー?」

それに悲鳴を上げた瞬間、イリュージョン・マッシュニアの顔のすぐ横に振り下ろされた。

イリュージョン・マッシュニア「…ひつく…わああああああああああん!…」

マリオがパンチした腕を引いた後、少し間を空けてイリュージョン・マッシュニアは恐怖から泣いた。

マリオ「……試合とかならまだいい…だけどな、こんなのは楽しいのじゃないんだよ」

泣いてるイリュージョン・マッシュニアにマリオは厳しく睨つ。

そして、膝を抱くトイリュージョン・マッシュニアの頭を撫でる。

マリオ「怖がらせたのは悪かつた…だがな、今回の事や人を殺す事は楽しいものじゃないんだよ…それに…楽しみたいのなら、俺たちのこの学園に来い、楽しい奴等がいっぱいだ」

イリュージョン・マッシュニア「…ホントに?」

厳しい顔を止め、優しく「マリオにイリュージョン・マッシュシリアは泣くのを止めてマリオを見る。

マリオは頷き、顔を空達に向け、イリュージョン・マッシュシリアも見る。

空「大歓迎だぜ！」

ソロ「だな」

チルノ「同じく！」

レヴィ「ボクもだぞ！」

クッパ「まあ、我輩も！」

ピーチ「一緒にいれば楽しい行事たっぷりよ！」

タレ銀「俺も良いよ」

アーカード「銀次が言つなり何もなこと」

空達は笑顔で歓迎し、誠と言葉も頷く。

マリオ「さあせと、此処は解放した事だし帰るぞ！」

チルノ「他の誰かいるかな？」

マリオの言葉に全員はイリュージョン・マッシュシリアと共に学園に戻ったのであった。

第23話・幻影回遊者（後書き）

ルイージ「ホント兄さんは…」

フォックス「厳しい時は厳しく、甘くする時は甘くだよな…」

スネーク「だな」

カービィ「だね～」

ヨッシー「まさに飴と鞭ですね～」

ネス「次回を待つてね！」

第24話・誠と雪葉の決意（前書き）

マリオ「長編はこよこよ終盤だな」

ルイージ「だね」

フォックス「だな」

第24話：誠と言葉の決意

生徒達の活躍により、同時に起きた騒ぎは全ておさめつた。しかし、その後に事態はさらなる展開を見せていく。傭兵団と運命肅清軍が手を組み、次の動きに出たのだ。

革命組織に運命肅清軍（傭兵团と「一一軍」）が接触して手を組んだ
という情報を受けて、運命肅清軍の工作や謀り事を未然に防ぐべく
マリオ達は出撃した。

「…おこづかせ…」

運命静肅軍兵「ぐくつー?」

パンチで運命静肅軍兵を倒した後にマリオはキックで後ろから襲い掛かろうとする別の兵士を蹴り飛ばす。

その隣でソニックがカリバーンとデルフを振るいて戦う。

「フォーマードライバー・ランチャー・オン、ガトリング・オン」

フォーゼ「」のー！」

ジーノ「ジーノブラスト!...」

ピーチ「ヒステリックボム!!」

クッパ「メカクッパプレス！！」

オーブルーム「あざわら」

天子「食らいなさい！」

シユテルーファイヤー！」

ロード・エクスカリバー！

別の場所で全体攻撃出来るメンバーが藉ぎ拵えていた。

ハラマキ・カムシ・ハクシ・シミ・ハクシ

元々外れにあがめたりて、かくして

龍驤

W 「難儀だよね~」

敵を斬りながらくしゃみをするフレイジードやケイジは呆れ顔をしながらも敵を撃退して行き、それを見ながら龍騎ともはその通り。

誠「世界」

言葉「西園寺さん」

世界「誠、絶対に私に振り向いて貰うからね」

弦く誠と言葉に世界は笑つて言ひ。

ドクターS「私達の野望の為にも…倒させて貰う」

ソロ「そつはせらるか…」

リュウケンドー「IJれは誠と言葉、そして彼女の決闘だ！」

チルノ「邪魔はさせないよ…」

誠「3人共…」

武器を構えるドクターSにソロ、リュウケンドー、チルノが前に現
れ、そう言ひ。

リュウケンドー「誠！カイトに聞いたけど途中は俺にはちんぶんか
んぶんでわからなかつたけど…過去にけじめを付ける為にも頑張れ
！」

ソロ「同じく…」

誠「あつ、ああ…」

リュウケンドーとソロの言葉に誠は彼等が恋愛関係には鈍感だと教
えて貰つてるので分かんなかつたと言ひのは恋愛関係部分だなど
一瞬考えた後に答える。

世界「行くよ」

言葉「負けません!」

そう言うと同時に2人はぶつかる。

過去にけじめをつけるため、2人は世界達と戦う。

言葉と世界はどちらとも同じ戦法だが言葉は世界の持つ短剣を警戒した。

言葉一（あの短剣、何がありますね…）誠君！短剣には注意してくれださい！」

誠て分かつた！」

言葉の注意に誠が領いたのに世界はギリツと歯を噛む。

言蝶 · ◎

言葉を吹き飛ばして世界は睨むか周囲を見る

この邊はより死にはせんほどのといかない状態であるた

それに世界は舌打ちした後に離れる。

世界一勝負は預けたわ！！

そういうと世界は退却し、ドクターSも煙幕で視界を遮つて逃げる。

誠「世界…」

世界がいた場所を見て、誠は悲しい顔をする。

戦いの後、生徒達は一旦学園へ帰還する。

情報交換をした後、決戦に備えてそれぞれの時間を過ごす。

そんな中、誠と言葉は、世界達が悪いとは言へ罪悪感を持っていた。

マリオ「どうした？ 考え事か？」

そこにマリオや数名が来る。

そして誠と言葉を挟んで座る。

誠「あつ、はい」

マリオ「考えてるのは西園寺世界達の事か？」

言葉「はい…分かりますか？」

誠が答え、マリオに殴られたので言葉は顔を伏せ、横田でマリオを見る。

マリオ「見るからにな…」

誠「……元はといえば、世界達がああなたのも俺が悪いんです」

やつ言つて誠は自分の過去を全て話した。

マリオ「… 罪を数えるなり良じやないか」

誠「？罪？」

全てを聞いてのマコオの言葉に誠はマコオを見る。

マリオ「師匠が言つていた。やつは自分で自分の起こしてしまつた過ちを覚えてこらなればならぬ。後悔する位なら引き摺るより背負つて前を進めとな…」

言葉「後悔する位なら…」

誠「引き摺るより背負つて前を進め…」

空「それにーそりやつて今の誠や言葉がいるんだろー。」

ソロ「それに罪悪感あるならまた友達になれば良いんじやないか？」

言葉「出来ますでしょうか？」

レビィ「出来るんだって思わなきゃダメだぞー。」

誠「嘘…」

マコオ達の励ましを受けて決意を固め、誠は言葉を見る。

誠「言葉、俺はもうお前を裏切らはずに愛してる」

言葉「私も、誠君を愛してます」

そしてお互に一度と裏切らず互いを愛し合つことを誓つた。

マリオ「また絆が深まつたお前等2人にプレゼントだ」

ルイージ「（兄さん、堂々と告白してゐるのに…）」

笑顔で言つマリオにルイージが顔を抑えてる間に本人は誠と言葉に腕輪を装着させる。

誠「…」

マリオ「俺がある世界で出会つた絆の女神、キズナハートの腕輪だ」

言葉「女神様の腕輪ですか！？」

マリオの言つた事に2人は驚いて腕輪を見る。

マリオ「キズナハートは称号の通り、絆を大切にする女神様でな、もし硬い絆で結ばれてる男女に会つたらこの腕輪を渡して欲しいって頼まれたんだよ…お前達ならそれを持つに相応しい」

マリオの説明に2人はお互に腕輪を見る。

腕輪を2人を祝福する様に光り輝いた。

第24話・誠と言葉の決意（後書き）

スネーク「なあ…あれ、絆以外の意味あるだろ?」

銀次「実は女神様にはもう一つ名前があつて、愛情を司る女神ラブハートで名前も司るのも愛情が本来ので…鈍感な人には絆の女神のキズナハートって名乗ってるんだよ…」同行していくので後で教えて貰つた。

ルイージ「女神様も認める兄さんの鈍感ぶり…」

リュカ「…」

ネス「次回を待つてね!」

第25話・現れし愛と絆の女神（前書き）

フォックス「終盤だあああーーー！」

スネーク「それで現れるは……」

ネス「だね」

第25話・現れし愛と絆の女神

翌日、学園側からの襲撃で決戦が始まった。

銀時やマリオ達主力部隊は、運命肅清軍を倒すために出撃した。

レヴィ「おりやあー！」

フォックス「はつー！」

スネーク「食らえーー！」

マリオ達は左側の敵と遭遇して戦いに挑んでいた。

誠「世界…」

言葉「西園寺さん…」

そして誠と言葉はリュウケンジー、チルノ、ソロ、ルイージ、ネオス、ネクサス、レヴィ、銀次に行く途中で命流した光と共に世界とドクターSに赤屍とヤンナと対峙していた。

リュウケンジー「(なあなあ、アレ誰?)」

誠「(エフート学園にいたヤンナ、厄介な相手だ)」

「いやっと耳打ちして聞くリュウケンジーに誠はやつて言ひ。

世界「さあ、今度こそ誠を私の物にさせて貰つわ」

そう言つと世界は何かをした瞬間…

ブレイド「ウエイ－ウェイバクシユン－－ウェイボシユン－－ウェイバショイ！－！」

ディケイド「あんたまたですか！－－！誰ですか真面目な時にこの人のアレルギーを出してる人！－！」

戦つていたブレイドが戦いながら大きいくしゃみをしまくり、ディケイドがツツ「ミを入れて戦いながら叫ぶ。

ルイージ「魅力系アレルギー……」

銀次「うわあ……」

赤尻「おやおや、変わった症状を持つてますね

誠「：」

世界「なつ、何で効いてないの！？」

すぐさま察知したルイージが言い、銀次は脱力し、赤尻が笑つてそう言い、誠が冷や汗を搔いてると狼狽した世界が叫ぶ。

ルイージ「あれ？ そう言えば誠君、大丈夫なの？ 言葉ちゃんも」

誠「あつ、そう言えば……」

言葉「大丈夫です」

世界の言つた事に気づいたルイージはそう聞き、誠もそう言われて自分の体を見て、聞かれた言葉もそう言ひ。

G4 「あの、その2人の腕輪が光つてるんですけど…」

光「あつ、ホントだ」

G4と光の言つた事に誠と言葉はマリオから受け取った女神の腕輪を見ると確かに光つていて、それが2人を包む。

そして光が晴れると誠と言葉の姿が変わつていた。

誠は頭に赤と青の色のハートが刻まれたサークレットを付け、体は赤と青の色が横半分に分かれた装甲鎧に覆われ、腕は右手にビーム機能付きキャノン、左手にガトリング機能付きショットガンを装着し、脚は右足に赤の義足、左足に蒼の義足に覆われていた。

そして言葉は髪は桃色に変わり、目の色が水色で服がラブプロセッサーと言つラブハートに変わつていた。

W「誠さんと言葉さんの姿が変わつたー？」

レティ「もしかして…」

スネーク「マリオ、まさかあれは女神の力が宿つてゐるのか？」

驚くWとレティの隣でスネークが渡したマリオに聞くが…

マリオ「おかしい…」

クッパ「むつ？おかしいとはどうした？」

惊讶なマリオにクッパは聞く。

マリオ「俺が腕輪を渡されて聞いた時、腕輪を持った男女がお互いに深く結ばれてるなら1人の女神、愛と絆の女神キズナラブハートになる…筈なんだけど…おかしいな…」

龍騎「何か足りないんですか？」

シユテル＆ロード＆ジーノ＆幽香＆天子「（と言つか、マリオから愛とかラブが出ると違和感あるな…）」

首を傾げるマリオに龍騎はそう言い、その周りで戦っていた鈍感以外のメンバーはそう心の中で思った。

ラブハート「うひ、これって…」

誠「マジかよ」

ヤンナ「ふん、変わったからって勝てる訳ないわよー！」

ドクターS「その通りです。現れなさい！」

驚くラブハートと誠にヤンナはそのままドクターSが同意して後ろに四人を召還する。

出たのはアナザーストーリーの21～22話で登場したイカインダー田中だが他に出た2人に光とソロは驚く。

光「イーウィルティガ！？」

ソロ「ダークザギだと…？何で…？」

G4「本物ではないですが本物と同じ力を持つてるようです」

ネクサス「…………ダークザギは任せろ」

光「それなら僕もイーウィルティガを！」

驚く2人にG4はそう言つとネクサスはそう言い、変身を解き、エボルトラスターを構え、光もカードを取り出す。

ムツツリー「…………ネクサス！」

光「ティガ～～～～！」

ムツツリーはウルトラマンネクサスへとなつた後にウルトラマンノアとなり、ティガと共にダークザギといーウィルティガと向かい合つ。

リュウケンドー「んじゃあ残つたデカブツは任せろーー！」

そつまつてリュウケンドーはアクセララーを取り出す。

リュウケンドー「ゴーボーバークル発進ーー！」

アクセララー「発進シフト・オン！！ダンプ！フォーミューラ！ジャイロ！デザー！マリン！ドリル！ショベル！ミキサー！クレー

ン...ジヒツト...GO...GO...」

音声の後に数メートル先からゴーゴービークルが現れ、リュウケン
ドーは上空から振つてきたアタッショケース型コンソールパネル『
ボウケンドライバー』をキャッチするとダンブルと搭乗する。

ドクターS「おおぞしを...やれ...!」

田中「デュア...!」

それを見たドクターSがそつまつと田中は光線を放つ。

ゴーゴービークルの手前の地面に直撃すると爆風が起まる。

リュウケンドー「アルティメットキック!!」

爆風の中から合体したアルティメットダイボウケンが飛び出し、田
中にキックを炸裂させる。

ドクターS「合体した!?」

ソロ「お前の相手は俺達だ!」

チルノ「だよ!」

驚いているドクターSにソロとチルノはそれぞれゼロイドライバー
ヒュウコウケンを構える。

ソロ「変身!」

ゼロイドライバー「カメンライド...ゼロイド...」

音声と共にソロの周りにウルトラ戦士の幻影が現われてソロと重なると共に姿が変わり、顔にカード装甲が差し込まれる。

その姿は顔はディケイドの額をWの額にして色を黄緑に変え、目の色を黄色にして顔のマゼンタの部分を銀色にした感じ、体はディケイドの胸アーマーのXを消してウルトラマンゼロのプロテクターを付けてカラーリングをウルトラマンゼロのカラーリングへ変えた仮面ライダーゼロイドになった。

チルノ「リュウケンキー発動!!!」

ヒョウリュウケン「チョンジ!」

チルノ「氷龍変身!」

言靈を唱つと同時にヒョウリュウケンから水色の龍が現れ、上空で吼えた後にチルノへと突撃する。

ぶつかつた後、チルノの姿はリュウケンドーの胸の鎧がマグナリュウガントーの鎧と混ざった感じを纏つたスーツの部分が水色の魔弾剣士リュウケンオーに変身した。

リュウケンオー「リュウケンオー!ライジン!」

ドクターS「こじやくな、目的の為にもお前達を倒す!」

リュウケンオーが名乗り上げた後に2人はドクターSとぶつかる。

赤屍「さて、私達もやり合いましょうか銀次君」

銀次「…あんまり戦いたくないんだけどな…」

笑う赤屍とは対象に銀次は嫌な顔するが気を引き締め、電気の剣を構え、それにはうと赤屍は感嘆の声をあげるとブラッディ・ソードを構える。

ヤンナ「ふふつ、私に2人で挑むとはね…」

revi「僕達は強いんだぞ！」

ネオス「先生達も頑張つてるから負けられないよ…」

不敵に笑うヤンナにレイフォームとなつたreviとネオスは構える。

ルイージ「2人共、悪いけど、割り込ませて貰うよ」

誠「ルイージさん？」

言葉と誠に断り、ルイージはコスモブラックを取り出し…

ルイージ「コスモース！」

上げ、叫んだ。

するとルイージは光に包まれ、晴れた後には等身大のウルトラマンコスモスがいた。

言葉「何時もと違う…」

誠「けど…何で？」

驚く誠と言葉を尻目にコスモスは両手を上へ上げた後、右手を突き出してフルムーンレクトを放つ。

世界「何これ？『君はそのままで良いの？』…？」

フルムーンレクトの光に疑問を感じる世界の頭にコスモスに変身しているルイージの声が響く。

コスモス『君と誠君達は友達だったんだが…』

世界「つぬさい、知らない奴が口を出すんじゃないわよ！」

コスモスの言葉に世界は叫んだ後にコスモスを攻撃する。

それにコスモスは氣にせずフルムーンレクトを世界に照射し続ける。

コスモス『君だつて祝福したかつたかもしれない。けど、君も誠君を愛していたからこそ、素直に誠君と言葉ちゃんを祝福出来ずに今の状態になつたんでしょ？』

世界「！」

攻撃されながらも訴えるコスモスに世界は動きを止めゐる。

誠「ルイージさん…」

ラブハート「やひつて…」

世界と同じ様に聞こえたフルムーンレクトを放ち続けるコスモスを見て誠と言葉は呟く。

そして前田の会話を思い出した。

ソロ『それに罪悪感あるならまた友達になれば良いんじゃないかな?』

言葉『出来ますでしょうか?』

レイディ『出来るんだって思わないダメだぞー!』

誠「まさかルイージさん…」

ラブハート「西園寺さんと友達になる為に…」

コスモスは世界を救いたいのだ。

そして自分達とまた友達として過りやせたいから話しているのだと…

コスモス『恋人とはなれないけど… 2人と友達としてやり直せないかい?』

世界「うわそこいつの間をこのへんを…私は何も悪くない…」

コスモスの言葉に世界は頭を振りながら攻撃を再開する。

その間、コスモスのカラータイマーは赤く点滅し、鳴り響く。

普通なら仮面ライダーの方になれば良いが、ウルトラ系ライダーは欠点があり、オリジナルと同じ様に巨大化は出来ず、ライダーの方では技の威力も低くなつてゐるのだ。

だからこそ、ルイージはウルトラマンになつたのだ。

その光景に2人はそれぞれの手を握り合つ。

誠「俺は…」

ラブハート「私は…」

誠＆ラブハート「世界（西園寺さん）を救いたい…」

そう言つと同時に2人は再び光に包まれ、晴れると誠が装着してい
たラブアーマーをプロセッサーと共に装着したラブハートだけしか
立つていなかつたが…目を開けた瞬間、右目は誠の色に、左目はラ
ブハートとなつていた。

クッパ「あれは…」

マリオ「あれこそ真の姿！愛と絆の女神！キズナラブハート！」

鈍感メンバー以外「（だから違和感あるな…）」「

それを見たマリオが言つた時に鈍感以外のメンバーはまた思つた。

そして両手から光を放ち、その光はコスモスのカラー・タイマーに吸収されると「コスモスのカラー・タイマーは再び青く輝き、そしてコスマスの体が青く輝き、奇跡の姿、ミラクルルナモードへとなつた。

世界「綺麗…」

それに世界は眩いた後、コスモスM-LMは構えを取った後に憎しみの心を浄化する青い神秘の光線、ルナファイナルを世界に注ぐ。

世界「わっ、私は…私は…」

頭を押さえ、世界は呻いた後に前のめりに倒れかけ、キズナラブハートが受け止める。

世界「ごめん…なさい…」「めんなさい…2人共…」

キズナラブハート「世界（西園寺さん）…」

氣を失いながらも謝罪の言葉を言つ世界にキズナラブハートはぎゅっと抱き締める。

コスマスM-LMは膝を付きながらもそれを微笑ましく見ていた。

ドクターS「世界…」

ティガ「ティアツ…」

ノア「むん…！」

リュウケンドー「アルティメットブラスター…！」

それをリュウケンオーとゼロイドと戦っていたドクターSは戦意喪失し、ドクターSが呼び出した3人の巨人はティガとノア、アルティメットダイボウケンにより倒された。

赤屍「おやおや、どうやら終わりに近づいて来たようですね」

銀次とぶつかり合っていた赤屍はそれを見てそのままとばつと離れる。

赤屍「それでは銀次君、私は此處でおいとまします。何時かまた戦いましょう」

銀次「それは簡便してくださいとしか良い様がないですよ・」

赤屍の言葉に銀次はそう言ひ。

ヤンナ「役に立たない奴等だね」

レヴィ「何だその言い方!」

ネオス「その通りだ!」

それを見たヤンナは舌打ちし、レヴィとネオスがそう言ひ。

ヤンナ「そんな事を言う奴は私の女王空間で倒されなさい!…」

やつらとヤンナとレヴィ、ネオスの周りの風景が変わる。

ヤンナ「いたぶつてあげるわ!…」

ネオス「悪いけどそれは」勘弁願うよー。」

ネオスバイザー「サンクチュアリベント

鞭を構えるヤンナにネオスはそつとカードを装填する。

すると女王空間にひび割れがほとばしる。

ヤンナ「なつ！？私の空間にヒビ！？」

それに驚愕するヤンナに気にせず、空間は消滅し、後には光り輝く神殿がある空間へと変わる。

ヤンナ「そつ、そんな馬鹿な…」

ネオス「カオスエクシーズチェンジ！アクセルシンクロオオオオ！」

呆然とするヤンナにネオスはカードを2枚掲げるとホープとスター・ダストが現れ、それぞれ、ホープは希望皇ホープレイに、スターダストはシユーティング・スター・ドラゴンへと変わる。

ネオス「今まであなたがやつてきた事への報いだ！！ホープレイ！ホープ剣・カオススラッシュ！シユーティング・スター・ドラゴン！スター・ダスト・ミラー・ジユー！」

ネオスの言葉と共にホープレイが3回、切り裂いた後にシユーティング・スターが幻影の突撃を受けた後にネオスのマグネシウム光線が命中する。

ヤンナ「そんな…私が…」

倒れたヤンナはそう咳くと氣絶する。

数分後、ヤンナは理事長の元へ引き渡され、学園へ受け入れられることなどなく地獄の罰で裁かれるにいたつた。

世界とドクターSIRと刹那は…

世界一「みんなで」「みんなで」「みんなで」「みんなで」「みんなで」

刹那「世界」

武器や能力を封じられた後、まだ謝り続ける世界に縛られた刹那は見ていた。

言葉「どうしたんでしょうか？」

マリオ「どうやらコスモスの放ったルナファイナルにより憎しみ以外にも色々と浄化された様だな……だからこそ自分の今までして來た罪に謝り続けるんだろう……」

誠「」

心配げな言葉にマリオは推測を言い、誠は静かに見ていたが、言葉の肩に手を回す。

気づいた言葉は誠の手が震えているので、優しく、手を置いたので

あつた。

マリオ達側の戦いはこれにより終わった。

第25話・現れし愛と絆の女神（後書き）

スネーク「わなみにマリオ…自分の言つていたキズナラブハートつてその女神様の受け売りか?」

マリオ「わうだけど?」

スネーク「はあ…」

リュカ「まあ、マリオさんひじいで良いんじやないかな…」

ネス「ですな~」

第26話・惚れ薬騒動（前書き）

フォックス「ゴートピアからのリクエストだ」

ルイージ「戦いの後に起つるは…」

ネス「だね～」

第26話・惚れ薬騒動

運命肃清軍と革命組織の戦いから数日が過ぎた。

刹那と世界は生徒として迎えられた。

当初、世界は罪悪感があつて、刹那と共に他の人々から離れていたが誠と言葉に空達が接する事で遠慮がちだが輪に入る様になつた。

そんなる日

マリオ「相談したい事?」

柵「ええ、これに関する事でね」

マリオの問いに柵は机にビンを置く。

柵「誰か分かんないけど、これが届いたのよ。中身は何かの薬で分かんないから聞きに来たのよ」

ルイージ「なるほど…けど、それなら僕達よりドクターの方が良いんじゃない?」

ソロ「だよな…あの人は医者だし」

柵「あなた達も知識あると思って聞きに来たんだけど…無理かしら」

…

相談していると楓が来たがメンバーは会話を聞いて気づいてない。

楓「（あれ？何か新しい飲み物かな？喉渴いていたから丁度良いや）

「

首を傾げた後に楓はそれを飲み干した。

マリオ「んじゃあドクター連れて来るわ」

ルイージ「頼むよ兄さん」

マリオがドクターを呼びに出て行つた後、全員薬の方へ向き直る。

フォックス「さてと…もつちょいしたら薬がわか…つておいいい
い！」

楓「楓！それ飲んじゃつたの！？」

フォックスが驚き、楓が急いで近寄り、そう聞いた時…

楓「楓…」

楓「んむつー？」

鈍感除いた一同「ー？」

楓は楓を見ると楓は楓にキスをして辺りが鈍感以外の騒然となる。

その中、メガネを使って薬が入つていていた瓶を見ていたコナンの格好をしていたピットがある物を見つける。

ピット「ちょー!? 皆! 此処見てーー！」

ピットが指した所を見ると小さく惚れ薬と書いてあった。

スネーク「ちつちやー!?」

天子「これ、思いつきり詐欺に使えそうな位に小さいわね…」

それにメンバーは睡然としてしまつ。

シユテル「思つたんですが… 2人をあのままにして良いんですか？」

シユテルの言葉に気になり見てみると…

楓「楓…」

桜「桜…」

楓と桜が半裸で抱き合つていた。

ムツツリー「…?」

明久「うーつー! ?」

それにムツツリー＝や他の男性メンバー（ファルコン・ハートを除く）は顔を逸らす。

早苗「止めますよーー！」

白蓮「はい…此処ではせびこですか…」

ファルコン・ハート「お前等止めろ。」

文「あやややや、強力ですね…」

それにつァルコン・ハートと女性メンバーは慌てて止めに入った。

マリオ「何だこの状況?」

ドクター「何やら凄い状況になつてゐるね…」

そこにドクターを連れて來たマリオはその状況に首を傾げ、ドクターは逆に冷や汗を搔いてそり殴りいた。

第26話・惚れ薬騒動（後書き）

リュカ「ユートピアさんからのリクエスト話でした…」

ネス「いや～大変だよね…」

クッパ「うむ…」

スネーク「次回を待つてろよ…」

第27話・バルサミ「酢」（前書き）

スネーク「なめ猫からのリクエストだ」

ネス「あの2人の登場だね」

フォックス「だな」

第27話・バルサミコ酢

楓が惚れ薬を飲んだちょっとした騒動の翌日

空「あれ? こなたにかがみ、どこかにお出かけか?」

どこかに出かけようとしているこなたとががみにチルノとソロ、レビと共にしていた空が気づいて聞く。

かがみ「ええ」

こなた「久しぶりに友達へ会いに行く所なんだよ」

ソロ「へえ、2人の友達か」

レビ「ねえねえ、ボク達も付いて行つて良いか?」

チルノ「どう言つ奴か知りたい!」

こなた「良いよ~」

2人の友達にソロ達は興味を持ち、こなたは付いて来る事に了承する。

ついでにマリオとソニック、ルイージ、レティも誘ったのであった。

ソニック「それにしてもその会つ友達ってどう言つ子なんだ?」

こなた「会いに行くのは2人で1人はかがみの妹でもう1人は完璧

美人だよ。一人は別のいい学園で頑張ってるんだ」

ルイージ「完璧美人って」

レティ「どういう子か楽しみね」

ソニック「そうだな」

こなたの言葉にルイージは苦笑し、レティは微笑み、ソニックも同意する。

こなた「ほら、此処だよ」

かがみ「此処に私の妹と友達が通つてるの」

ソニック「此処が…」

田の前の学園を指してこなたとかがみがそう言つと…

? ? ? 「こなちや～ん、お姉ちや～ん」

そこに手を振つて走つて来るかがみの髪の色と同じショートカットの少女が走つて来て、その後をピンク髪のメガネをかけた少女が来る。

ソロ「あの2人がそうなのか?」

かがみ「ええ、走つてるのが妹のつかさでその後ろにいるのが高良みゆきよ」

「マコ子はやつぱつと内心思つてゐ隣でソロが聞き、かがみが紹介する。

つかせ「久しごぶり~」

みゆき「お久しごぶり~」なたさん、かがみさん」

「なた「2人共元氣によかつたよ~」

息を整えて言つつかせとみゆきに「なたはもう言ひ~

レヴィ「もうしぐだ~」

チルノ「もうしぐ~」

つかせ「もうしぐね~私は終 つかせ~もうしぐね~」

みゆき「高良 みゆきと聞こます。もうしぐお願いします~」

空「もうしぐ~」

ソロ「2人には助けて貰つてる所があるからな~」

それぞれ自己紹介した後に色々と自分達が過ごした事を帰るまで話したのであった。

つかせ「じゃあねお姉ちゃん~」

みゆき「また今度」

「こなた「またね」

かがみ「2人共頑張つてね~」

それぞれ手を振つて分かれたのであつた。

ソロ「面白かつたな!」

空「そうだな、今度は他の皆も連れて会いに行くか!」

チルノ「だね!」

レヴィ「楽しい奴等だつたぞ!」

レティ「良かつたわね

ルイージ「あはは…」

マリオ「また会えるだろ?」

ソニック「YESS!」

話しあつてる空達を見て、マリオとソニックはお互に笑つた。

第27話・バルサミ「酢」（後書き）

リュカ「と言つて、でなめ猫さんのリクエスト話でした～」

ネス「つかさんとみゆきさんの登場だね」

クッパ「アナザーでも出るのだろうか？」

フォックス「どうなんだろうな…次回を待つてねよー。」

第28話・ダクトの中の赤ゴイン（前書き）

フォックス「魔王からのリクエスト話だ」

スネーク「赤ゴイン集めだな」

リンク「ですね」

第28話・ダクトの中の赤コイン

マリオ「此処か…」

目の前の地下ダスト入り口を見てマリオは呟く。

他に、ソニックと空、チルノ、ソロ、レヴィ、レティがいた。

なぜこんな所にいるかと言つと魔王の元にある依頼が来たのだ。

とある依頼主が7枚の赤コインを地下ダクトに落としてしまったらしい。しかもそのダクトは特殊な煙に包まれていて動きが緩くジャンプが高くなるらしい。しかも敵がいる。マリオ達はその依頼を受け、赤コインを探すことにしたのだ。

チルノ「それにしてもレティ珍しいね。あんまり参加しないの?」

レヴィ「確かにそうだぞ」

レティ「ちょっとね。カイト君に負けたまじやああなた達の師匠の様な存在として申し訳ないじゃない」

隣にいるレティに聞くチルノと同意するレヴィは苦笑してアナザーストーリーの50話でのカイトの勝負を思い出していた。空「あの時のカイトは凄かったよな!」

ソロ「そうだな!」

レティ「あなた達も…普通は私やカイト君を超える力を持つてのに何で私に勝てないのかな~」

レティの言葉に空とソロも思い出してそう言い、レティは悪戯たつぷりな笑みで2人に言つと2人は顔を逸らし、から笑いして頭を搔く。

レティの言つ通り、2人はそれぞれ究極の力を持つている。

ただ、2人共流石にここぞと言つ時や自分達での模擬戦や戦い以外あんまり使う気はさらさらないので。

特に空は全力で出すと吐血するのであんまり心配されたくないのでほぼ本気の5%しか出してないので。

それでも普通に勝てる位に鍛えられているが…

勿論アナザーストーリー第8話では普通に全力100%でぶつかつたが…

閑話休題

色々と話していると目的地の地下ダクトに到着した。

ソニック「おお~」

チルノ「ホントに緩いね~」

レビィ「ホントだぞ~」

レティ「はいはい、女の子だからあんまり飛ばない。此処に7枚の赤コインが落ちてるのね」

試しに軽く動くソニックの隣ではしゃいでジャンプするチルノとレヴィを嗜めた後、レティは呟く。

その後、それぞれ分かれて探した。

マリオ「ほいっ…と」

マリオはすぐに慣れてタイミング良く、ダクトにいたクリボーを踏んで赤コインをゲットする。

ソニック「ゲット!」

ソニックもデルフを使って風で煙と敵を掃いながら2枚目の赤コインをゲットする。

レティ「楽勝ね」

突進して来る敵をジャンプでかわしてレティは3枚目の赤コインをゲットする。

レヴィ「ゲットだ!」

チルノ「同じく…」

こちらは競争しながらハートレスを倒して4枚目と5枚目の赤コインをゲットする。

空「おわっと…」

ソロ「おひとい…」

他のメンバーがそれぞれ取つてゐる頃、空とソロははじまっていた。

ダクトの中で一番広いと思われる場所で残りの赤コインを見つけ、取りに行こうとした瞬間にそれは現れた。

ガーギルタイガー「ガオオオオアアアアアアツーーーー！」

それが2人の前に2度に渡つて超次元学園に現れたガーギルタイガーである。

空「何でこんな所にいるのかな…」

ゲキリュウケン「言つてる場合ぢやないぞ鳴神」

ソロ「その通りだな。ネプテューヌ達が倒した奴よりさらにパワーアップしてゐようだな」

ぼやく空にゲキリュウケンはそう言い、ソロが冷静を見て言つ。

空「んじゃあ、俺達もあの時のネプテューヌ達の様に派手に行くぜ！」

ゲキリュウケン「おい、待て！まさか「ああー俺達のビッグバンで吹き飛ばすぜ相棒！」だからお前達！…」

空「インペリアルゲキリュウケン！」

ゼロイドライバー「カメンライド!」

ソロ「変身!」

ゼロイドライバー「ゼロイド!...」

ゲキリュウケンの言葉を無視して2人はそれぞれ空はゲキリュウケンをインペリアルゲキリュウケンに変え、ソロもゼロイドに変身すると新たなカードを構える。

空「インペリアルリュウケンキー!発動!」

Eゲキリュウケン「チョンジ、インペリアルリュウケンジー!」

ゼロイド「新たなビッグバンだ!」

ゼロイドライバー「フォームライド!」

空はキーを差し込み、ゼロイドはカードを装填する。

空「撃龍変身!...」

ゼロイドライバー「ゼロイド・スラッシュガーバー!」

空は構えると共に出た龍に包まれ、ゼロイドは音声と共に光に包まれた後に2人は姿をえていた。

空はアルティメットリュウケンドーのアーマーをゴッドリュウケンドーに混ぜた感じで、スーツの色は青色の帝王の名を冠する魔弾剣士

「リコウケンジャー」「敵が悪の申し子ならばリコウケンジャーは帝王となるん、魔弾剣士インペリアルリコウケンジャー・ライジン!」

ゼロイドはゼロイドにゼロスラッガーが変化したゼロスラッガー・ギアのスーパー・フォームとキーパー・フォームを混ぜた青と銀に胸の中央が星の鎧を装着した『仮面ライダーゼロイド・スラッガーフォーム』へとチェンジした。

ゼロイドDFS「見せてやるぜー俺達の力をー」

エリュウケンジー「行くぞ！ソードキー！発動！」

「マダントード！」

ゼロイドSFが言った後にマダンダガーが強化されたマダンソードをEゲキリュウケンに装着させ、ツインジャベリングキリュウケンへとするとゼロイドSFと共にガーギルタイガーに挑む。

「……………」アリスが口を閉ざす。

ガーギルタイガーの爪攻撃を避けた後にゼロイドSFが連続でガーギルタイガーのお腹にラッシュをする。

「アーティザン」アーティザン

エリック・カーンデル「オマケー！」

そして蹴りで上へ吹き飛ばした後にEリュウケンドーがツインジャベリングキリュウケンで叩き落す。

ガーギルタイガー「グルアアアアアアアツー！」

起き上がった後にガーギルタイガーは怒りの咆哮を放つた後に体を横に回転し、ツメとしつぽを合わせた回転攻撃をしかけるが…

エリコ ウケンデー「おつやあーーー！」

エリュウケンドーは尻尾を切断し、爪を根元近くに切断する。

ガーギルタイガー「グニアアアアアアアアツ！？？ガアアアアアアツ！」

それにガーリルタイガーがのたうちまわってる間に2人は必殺技の体制に入る。

「リュウケンドー」「ファイナルキー！発動！」

「リゲキリエウケン一ファイナルクラッショウ!!」

ゼロイドライバー「ファイナルアタックライドー・ゼ・ゼ・ゼ・ゼ・ゼ

エリュウケンダーはトゲキリュウケンを回し、ゼロイドSFはF ARカードを装填すると両隣にそれぞれスーパー・フォームとキーパー・フォームのゼロスラッシュ・ガーギアを纏つたゼロイドが現れる。

「シリウス、アーティンジャベリングキリュウケン！ 超帝王斬り！」

ゼロイドSF「ティメンションドリーム……」

Eリュウケンダーは2つの龍型斬撃を放ち、ゼロイドSFは両手と胸から光線を放ち、スーパーフォームのゼロイドは胸の星から強力光線『エメリウムスター・ビーム』を、キーパーフォームのゼロイドは右腕のリフレクションブレードから光線を打ち出す。

それ等は一つとなつてガーギルタイガーに直撃した。

Eリュウケンダー「闇に抱かれて眠れ」

ガーギルタイガー「グギャアアアアアアアツ！！！」

背を向け、Eリュウケンダーが静かに言つとガーギルタイガーは倒れた。

空「けふつ」

そして変身を解くと同時に吐血した。

ソロ「んじゃ、持つて帰るか」

空「だな」

血を拭う空にソロはそう言つと2人は赤コインを持ってマリオ達と合流し、帰つたのであった。

第28話・ダクトの中の赤ロイイン（後書き）

リュカ「と言つて、で真王さんのリクエスト話でした」

ネス「普通に持つて帰る話が長くなつたね～」

スネーク「そうだな…」

クッパ「次回を待つていいのだー！」

第29話・昼飯時間の緊急事態!!（前書き）

スネーク「ヴァーラガルザからのリクエストだ！」

フォックス「タイトル通り！！」

ネス「やばいやばいやばいやばいやばいやばい！」

リュカ「」

クッパ「始まるのだ！！」

第29話・昼飯時間の緊急事態――

何時もは賑やかなお昼の時間

だが、今は沈黙に包まれていた。

お妙「はい、召し上がり」

その理由はお妙の作った大量の卵焼きが原因である。

（いわゆるマジで）の状況……」

（確かにはやせこみな……）

ネフテヨーヌー（じゅする！？）

カイテー（此処はマリホに食べて貰ひつかないよな……）

世界へ（そのマリオさんの姿が見えないんだけど……）」

言葉（そう言えは見えませんね…）」

それぞれ小声で話す中、世界の言葉に誰もがマリオの姿がない事に気づき、ルイージの方を見る。

ルイージ「それが…兄さん風邪引いちゃつて…」

神楽「マジアルか!?」

ビビ「珍しいわね…」

ギルシア「あいつ的にそつ言つのとかけ離れてるもんだからな…」

マロ「原因は何か?」

ルイージのマリオがいない理由を聞き、神楽ビビは驚き、ギルシ
アが呟いた後にマロが風邪の理由を聞く。

ルイージ「滝に4時間も打たれてたんだよ…その疲れもあって…」

アイエフ「それは風邪引くわよね…」

コンパ「けど、疲れって?」

ルイージの言葉にアイエフはそつ言い、コンパが疲れの部分に引っ
かかり、聞く。

ルイージ「いやね…デスフォールって言つ毎分1兆リットルも落ち
て来る滝で打たれて…一度落ちて来る落石とか流木とかも壊して
さ…」

それに一部のメンバーは吹いた。

デスフォールは別名、処刑の滝とも言われるとある世界で世界三大
瀑布と呼ばれる巨大な滝の1つなのだ。

しかも落ち着ける足場などは全然ないのだ。

こなた「良く流れなかつたね…」

ルイージ「まあ、変身して挑んでたからね…」

かがみ「それでもよーやんわよ…」

冷や汗を搔いて修行しているゼロの姿を浮かべて呆れる。

ヨシシ「こうなつたら逝りますよ…」

カービィ「おう…」

ビシッ!と鉢巻を付けて2人は卵焼きに突撃する。

大食い「ンビ」「うおおおおおおおおおおおおおお…」

そしてそのまま吸い込んで行く。

全部食べきるとそれぞれ「クンと飲み込む。

大食い「ンビ」「ピーチ姫のに比べれば怖くない…ぐふつ」

そう言い残すと2人は倒れた。

こなた「見事な塵様であった(　・・)」

新ハ「あの人たちは勇者ですよ」

ルイージとチルノ、ソニック、ソロと空に運ばれて行く大食い2人
にこなたと新ハは敬礼して見送る。

お妙「あら…まだあるのに寝ちゃったのね

そのお妙の言葉に残っていたメンバーは青くなつた後…

？？？「どう…」

そこに現れたのは…

ピット「君は！サイサリス！」

ゼフィランサス「俺もいるよ~」

デステイニー「俺も…」

SDガンダムメンバーのデステイニーとサイサリスにそんな彼に縛られたゼフィランサスであった。

サイサリス「おらおらおらー！全部食べろ兄貴…！」

そう言つてゼフィランサスにサイサリスは残つた全てを食わせる。

ゼフィランサス「酷いね弟よ」

一同「(けふうとしてるううう…？ってかありがとう…。)」

全部飲み干した後のゼフィランサスに一同が驚いた後にサイサリスに感謝する。

ウイング「…何やら凄い事になつてるな」

デスサイズ「そうだな、色々と楽しもうだな」

ヘビーアームズ『そうだね』

ブリッツ「『』さるな」

ステイメン「『』にちわ～」

そこにウイング、デスサイズ、ヘビーアームズにブリッツ、ステイメンも来る。

レティ「あら？ 珍しいわね」

ファルコン・ハート「何でお前等此処に？」

デスサイズ「マリオに誘われたんだよ」

ウイング「学生にならないかと聞いてな」

ヘビーアームズ『暇だったから来た』

ブリッツ「それでマリオ殿はどこに？」

レティが言った後にファルコン・ハートが聞くとそう返され、ブリッツは周りを見て聞く。

その後、マリオの事情を聞いて呆れた後にゼフィランサス、サイサリス、ステイメン、ウイング。デスサイズ、ヘビーアームズ、デスティニーとブリッツのメンバーが新たに超次元学園の生徒に加わった。

なお、余談だがマリオは翌日こま元気に登校して來たのであった。

第29話・昼飯時間の緊急事態！（後書き）

リュカ「と言つて、ヴァーラガルザさんからのリクエスト話でした
」；

スネーク「ゼフィランサスの奴、何時の間に…」

サイサリス「どうもスマハツ出張版で××料理を食べたせいで慣れ
たらしい」

フォックス「凄いなぜフィランサス！」

クッパ「次回を待つてはいるのだ！！」

第30話・セイタの特訓！（前書き）

スネーク「龍の骨からのリクエストだ」

フォックス「

第30話・セイタの特訓！

セイタ「うーーん…」

ある日、セイタはグラディエーターアーマーの力に疑問を感じていた。
セイタ「（ただ、グラディエーター・アーマーに頼つての戦いで良いのかな…）」

そう考え、セイタはソラ達に相談する事にした。

ソラ「生身でも戦える力を持ちたい？」

セイタ「はい」

ソロ「いきなりだな…どうしたんだ？」

話しかけたセイタにソロは理由を聞く。

セイタ「僕はほとんどグラディエーター・アーマーを装着しての戦いが主だったので生身でも戦える様にしたいんです」

チルノ「ああ～」

レビィ「確かにあんまり見た事ないな」

生身で戦闘能力を上げたいと願つセイタにチルノとレビィは思い出して言つ。

ソロ「良し…こいつがやるか！」

ソラ「だな！」

零斗「それだつたら、俺も手伝つぞ」

セイタ「零斗さん…」

ソロとソラが言つた後に聞いた零斗が協力しようと入つてくれる。

そして翌日

零斗「ほい、これを使え」

そつ言つた後に零斗はセイタにグラディウスとラウンジーシールドを模した木製の剣と盾を渡す。

セイタ「これつて…」

零斗「自分が使つて来たのに近い奴の方が慣れ易いだろ？」

ソラ「久々だな、こいつを使うの」

チルノ「あたいは初めて～」

ソロ「そうだな」

レイン「ガンバですか嬢ー！」

レビィ「おうー！」

渡された物を見るセイタに零斗はそう説明し、セイタの安全の為、木剣と木杖を持ったソラとチルノ、ソロ、レビィは構える。

セイタ「それじゃあお願ひします！」

ソラ「おうーー！」

そつまつと同時に4人は走り出す。

最初に来たソロとソラの攻撃をセイタは木剣と木の盾で防ぐと正面からチルノが木剣を振り下ろそうとしてるのにソラが気づいて防ぎ、ソロも来たレビィの攻撃を防ぐとセイタを蹴る。

セイタ「くつーー！」

後ずたつた後にセイタはチルノと戦うソラに突進して行き、盾で吹き飛ばす。

ソラ「おつと…やるなセイターお返しのストライクレイドー！」

笑いながらそつまつとソラは木剣を投げてセイタを攻撃する。

その後、何回もぶつかり合ひ。

数分後

セイタ「はあはあ…」

ソラ「なかなか良かつたじゃん」

ソロ「そつだな、このまま向回かせられマーマーなしでも普通に戦えるだらうな」

仰向けで転がるセイタを見てソロは評価する。

セイタ「あつ、あつがとうござます」

零斗「まあ、それでも、油斷せずにひなことな」

セイタ「はー。」

以後、セイタもソラ達の訓練に加わり、強さを磨いていくのであった。

第30話・セイタの特訓！（後書き）

リュカ「龍の骨さんからのリクエスト話でした～」

スネーク「セイタのこれからが楽しみだな」

フォックス「そうだな」

ネス「どうなるのやら～」

クッパ「次回を待ってるのだ！！」

第31話・やつて来たヤクザ（前書き）

フォックス「ヴァーラガルザからのリクエストだ」

スネーク「大変だな銀次も…」

ネス「だね」

第31話・やつて来たヤクザ

竜童「天野 銀次はいるか！！」

ある日、学園に竜童率いるヤクザの集団がやつてきた。

空「銀次に何か用か？」

竜童「ああ、借金関係でな」

ソロ「借金？あいつギャンブルする様な奴じゃないだがな…」

空が聞き、竜童の言つた事にソロが言つと…

竜童「あいつと言つよりあいつの自称妻関連でな、壊した奴の弁償
がまだなんだよ」

レティ「アーカード関連ね：」

竜童の言葉にレティは冷や汗を搔く。

レビィ「それなら銀次は慌てて走つてたぞ」

竜童「逃げたか…」

タレ銀「ホントにアーカードさんはあああああああ…！」

全速力で走りながらタレ銀はアーカードに怒つていた。

そして曲がり角を曲がった時…

タレ銀「むぎゅつー?」

? ? ? 「おわつー?」

? ? ? ? 「あやつー?」

誰かとぶつかり、お互に尻餅付くとタレ銀はぶつかった人物に驚く。

タレ銀「蛮ちゃんと卑弥呼さんー!」

蛮「あつ、てめえこの前のー!?」

卑弥呼「銀次だっけ、久しづりね

タレ銀が指差し…蛮も返して卑弥呼がそいつ。

ちょっとと説明して置くと、超次元学園のある世界には銀次のいた世界にあつた裏新宿が存在するが違うのはこの世界にこの世界の銀次がいないと言う事である。

それにより奪還屋は蛮しかいなくて、卑弥呼が時たま手伝っていると言つ感じになつてゐる。

銀次が知つたのは長編前の時であり、その時に裏新宿に行つた際仕事中の蛮と卑弥呼と出会い、その後は音沙汰なしだつたのである。

赤屍に関しては入学した直後に出来た時に出合つたのである。

タレ銀「何で蛮ちゃんと卑弥呼さん走つてたの?」

卑弥呼「まあ、私の場合は蛮関係で巻き込まれてね…」

蛮「そいつお前は…自称妻関係だろ?」

タレ銀「うん…」

そう話してゐ間にヤクザが来て、3人は連行された。

蛮「卑弥呼のやつ…」

タレ銀「しょうがないよ蛮ちゃん、卑弥呼さん関係ないんだしさ…」

関係ないので解放されて入り口で待つてゐると出て行つた卑弥呼に
蛮はイラつき、タレ銀が宥める。

蛮「つてかよ、お前は何で初対面から俺をちゃんと付けするんだ?」

銀次「あ…」

ふと疑問に思つたのか聞く蛮に銀次は目を泳がせていると…

ヤクザ1「おい聞いたか…また一人、呪術王にやられたらしいぜ」

ヤクザ2「聞いた聞いた、ホントに何者なんだろうな呪術王つて奴
は…」

銀次「！？」

ヤクザ達が話した事に銀次は目を開く。

蛮「銀次？」

銀次「ねえ！その呪術王の話を聞かせて！」

ヤクザ3「おわっ！？何だ兄ちゃん？呪術王の事知りたいのか？」

ヤクザ4「最近になつて裏に現れた奴でよ、どこから来たのか分からぬ人物だ」

ヤクザ5「だから年齢も色んな奴が不詳なんだよな…」

驚く銀次に蛮は疑問詞を浮かべる中で銀次は聞き、その言葉に銀次はありえないと顔で表現していた。

蛮達と初めて出会つた後、銀次は様々な事で調べたがこの世界に呪術王は銀次と同じ様に存在しないと言う事が分かつた。

その後、銀次は解放された後も嫌な予感を感じ取るのであつた。

第31話・やつて来たヤクザ（後書き）

リュカ「と言ひ訳でヴァーラガルザさんからのリクエスト話でした」

フォックス「さてさて、銀次の感じ取ったのは…」

ネス「だね～」

クッパ「次回を待ってるのだ！」

第32話・楓と桜の絆（前書き）

スネーク「ゴートニアからのコクエストだ」

フォックス「やひたて、どうなるのやら…」

ネス「だね」

第32話・楓と桜の絆

デスサイズ「きょ～うは楽しいハイキング～～～」

ウイング「テンション高いなデスサイズ」

デスティニー「確かに」

ある日、山へハイキングに行く事になった。

他のメンバーもワイワイ話している。

桜「まったく、はしゃぎ過ぎじゃない？」

楓「そんなに楽しみにしてたって事だよ」

桜は楓と一緒に居て、テンションの高いメンバーに桜は呆れ、楓は苦笑して言つ。

その時！

ガツ！

桜「あつー？」

楓「桜ー！」

桜が足を滑らせて崖から落ちそうになり楓が手を掴むと一人して落ちてしまった。

マリオ「いかん！」

ソロ「楓！ 梶！」

それに気づいたマリオとソロは慌てて下を見る。

ソラ「早く探そうーー！」

レティ「やうねー！」

それによりメンバーはそれぞれ分かれて楓と梶を探す事に…

楓「……ん……此処は……つーー？」

一方の楓が気が付くと足に痛みが走り、見ると足を怪我していた。

梶「楓！ ？ 足を怪我したのーー？」

楓「大丈夫……つーー？」

梶「全然大丈夫じゃないじゃないーーー背負つて行くから我慢してね」

無理して立ち上がり立てる楓を制して梶は楓を背負い合流しようとすると…

魔物「ぐおおおおおーーーー！」

梶「つーーーんな時にーーー！」

魔物が現れ桺に襲い掛かり、それに桺は苦い顔をする。

仕掛けで来る攻撃を桺はなんとか避けていく。

楓「桺！放して下さい！」

桺「いやよー！」

避けながら会話していた時…

ガガガガガッ！

魔物と楓達の間に銃撃が走り、それに魔物が驚いていると…

？？？「三華崩山彩極砲」

魔物の前に何者かが立ち、右手にエネルギーを収束させた後にそれを魔物に叩き付ける。

楓「美鈴さん…それに鈴仙さん」

魔物を倒した人物、美鈴と後から来た鈴仙に楓は驚いた表情で呟く。

鈴仙「久しぶりね…はあ…」

桺「何ため息吐いてるのよ？」

美鈴「まあ、ちょっと住んでる所が出でている間にトラブルに巻き込まれたつて事を聞いたやつて…」

ため息を吐く鈴仙に榎は眉を潜め、美鈴が頭を搔いてそう言つ。

「デスティニー」「いたーーー！」

ダブルオー「こちらダブルオー、楓、榎両名を発見、美鈴と鈴仙が保護してた模様」

そこに「デスティニー」とダブルオーが飛んで来て、報告する。

その後、楓を治療した後に学園に戻つたのであつた。

紫「……と言ひ事でしばらく世話になりますわ」

真王「そうか…分かつた。そちらの住み込みを許可しよう

そう言う会話が理事長室であり、美鈴や鈴仙の他、靈夢、魔理沙、八雲一家に紅魔館一同、萃香、命蓮寺一行、阿求、慧音、妹紅、ミステイア、ルーミア、リグル、秋姉妹、衣玖、にとり、雛、小町、映姫（本人は渋つていたが紫の事情も事情なので折れた）、神奈子と諏訪子などの鈴仙を除いた永遠亭やお空を除いた地獄の面々にアリスと妖夢、幽々子以外の東方メンバーがしばらく超次元学園にいる事になつた。

第32話・楓と桜の絆（後書き）

リュカ「ゴートピアさんからのtıkエスト話でした～」

スネーク「さらに増えたな～」

リンク「まあ、ちょっととしたな～」

オリマー「だね～」

カービィ「次回を待つてね～」

第33話・猫猫猫猫猫猫猫猫猫...（前書き）

スネーク「なめ猫からのリクエストだ」

ネス「またも猫猫祭り」

リュカ「だね！」

オリマー「そしてちょっとビヴァーラガルザ氏のネタも...」

第33話・猫猫猫猫猫猫猫猫猫

真王「そんな事が…」

紫「お陰様で幻想卿を離れるしかなかつたわ」

依姫「そして月も…くつ…」

理事長室で真王が幻想卿で起きた事を聞き、そして月もまた、やられた事に難しい顔をし、紫は肩を竦め、むきを着いた依姫は歯を食いしばる。

真王「まあ、じばいへは此処でゆづくつして行ひてくれ」

紫「ええ…それで…聞きたいんだけど…」

依姫「この猫達は一体?」

真王「さあ?」

真王の言葉に紫は頷いた後に依姫が自分の足元にいる猫達を指し、真王はそつ返す。

教室にて…

言葉「あわわ…」

世界「どうやつたら猫が胸に挟まるの…?」

誠「器用な」

ムツツリー「……………ちょっと嬉しい」

明久「ムツツリー、は猫が好きだね。」

13話の時より沢山の猫がいて、言葉の胸に猫が挟まつて世界がツツコミ、誠は冷や汗を搔き、ムツツリーーは猫ともふもふしてほんわかしていて明久はそう言つ。

メディアコンパロコンパロ凄いね

幽香「ホントね〜」

天子

リグル「幽香さん！メディスンの相手しながら天子さん踏んでる！それで思いつきり行き掛けてるー！」

サトシ「天子が死ぬつて！」

幽香&天子「それはない」

ミステイア「異口同音で返した！？」

ルーミア「やれやれ」

メディスンを抱き上げ、天子を踏む幽香にリグルはそう言い、サトシがそう言つと踏まれていた天子と共に幽香はそれを否定してミス

ティアは叫び、頭を振った後にルーニアは紅茶を飲む。

スマハツでのリグルとルーニアはそれぞれ大人の姿になつてます。

美鈴「…………」

桜（東方）「わふう…………」

咲夜「…………」

鈴仙「さつ、咲夜さん、血の涙出でますよ・」

こちらは座つて寝ている美鈴とそんな美鈴の周りに大量の猫が寝ていて、美鈴の膝に器用に丸まつて眠る桜（東方）がいて、それに咲夜は血の涙を流し、鈴仙が慌てる。

スマハツでの東方だと、美鈴は鈴仙、咲夜、妖夢、桜のメンバーに好意を寄せられているのだ。

なお、遠い場所で感じ取つた妖夢がいきなり血の涙を流したのに呪術王側のメンバーがぎょっとしたのかは知らない。

靈夢「ああもう、のんびりしすぎよあいつ等…」

魔理沙「流石に今回はしようがないぜ靈夢」

空「そつそつ、敵の場所が分かんなきや動けないって

ソロ「だな」

猫が2本脚で立つて踊り、それに衣玖と一緒に踊つてる橙を文やはたてから取つたカメラと携帯で取つてる鼻血を流した藍を見てぼやく靈夢に魔理沙はそう言い、空とさつきまで変身してたが暖房器具をオンにしたので解除して猫に埋もれてるソロは同意する。

にとり「色々と面白いね~」

雛「そうね」

パチュリー「むきゅ…ライバルいないと張り合いかないわね」

小悪魔「こあ~アリスさん大丈夫でしょうかね?」

それににとりはそう言い、雛も同意した後にパチュリーが此処にいなアリスにそう呟き、小悪魔がそう言つ。

ルイージ「兄さんどうする?」

マリオ「また飼い主探しと預かりだな…」

ソニック「色々と大変だな」

その光景にルイージは聞き、マリオがそう言つとソニックは苦笑しながらそう言つ。

その後、飼い猫は送り届け、後は育てる事になつたのであった。

第33話・猫猫猫猫猫猫猫猫猫...（後書き）

リュカ「と言う訳でなめ猫さんからのリクエスト話でした～」

ネス「いや～今回も猫猫だったね～」

オリマー「倍いたけどね～」

ギル「ふつ

クッパ「次回を待ってるのだ！」

第34話・ソロ▽Sノア（前書き）

スネーク「光を継ぐ者からのリクエストだ」

ネス「タイトル通り」

リュカ「どうなるかな？」

第34話・ソロ▽Sノア

とある日

オリマー「ああーあれー！」

魔理沙「なんじゃありやあー!?」

超次元学園の空中に何かが現れ、それにオリマーと魔理沙は驚く。

紫「あれは…時空を割つてゐるわね」

靈夢「誰よそれやつたのよ?」

扇で口元を隠して言つ紫に靈夢が聞いた後に…

そこからウルトラマンノアとダークメフィストが出てくる。

ソロ「ウルトラマンノアにダークメフィストー!?

零斗「シンゴ?」

シンゴ「此処にいますよ…」

驚くソロの隣で零斗が咳き、シンゴが否定した後に2人の巨人は着地すると光と闇に包まれ、人間サイズになるとノアはネクサスにダークメフィストは溝呂木になる。

ソロ「あんたは?」

ネクサス「私は古代 光をあの世界に送った者だ」

溝呂木「俺はこいつに審判役で引っ張られて来た」

ソロの問いにネクサスはそう言い、溝呂木はどことなく疲れた表情で言つ。

チルノ「審判役つて？」

ネクサス「私達が此処に来た理由はソロ、光に本来の力を取り戻すきっかけを作つた君と勝負する為に来たのだ」

ソロ「おもしれ！！ムツソリーー二がなつたネクサスと戦つた事があるが本人と戦えるのは光栄だぜ！」

にとり「んじや あ準備するね」「

チルノの問いにネクサスはそう答えるとソロは右手を左掌にぶつけパンと鳴らすとにとりがそう言つて何かの機械を取り出すと操作しその機械から光が出ると学園を包む。

ネクサス「これは？」

にとり「私特性、ウルトラフィールドだよ、この中にいればウルトラ戦士も普通に何時もの姿でいられるよ」

ネクサス「それは便利だな」

ソロ「んじやあやるか！」

そつ言つと同時にソロはウルトラマンゼロになると構え、ネクサスも構える。

溝呂木「それじゃあ…準備良いか?」

ゼロ「勿論!」

ネクサス「同じく」

確認の問い合わせ2人にした後に溝呂木が始め!と言つた瞬間に2人のコブシがぶつかりあつた。

ネクサス「ハツ!」

ゼロ「デヤツ!」

それぞれ来るパンチを払いあつたり、キックをぶつけあつて行く。

ゼロ「ダツ!」

ネクサス「タツ!」

ネクサスの回し蹴りを避けた後にゼロはしゃがんだ後のロー・キックでネクサスの足を狙うがネクサスはキックを放つた体制のままジャンプしてかわす。

ゼロ「デヤツ!」

ネクサス「ダツ!」

離れた後にゼロはワイドゼロショット、ネクサスはクロスレイシユトロームを同時に放つとぶつかり合い、中央で爆発する。

ネクサス「むんつ！」

ゼロ「いくぜー！」

その後にネクサスはジュネッスになり、ゼロはゼロスラッガーを胸の前に構えるとゼロスラッガーが光り輝き、胸に星の付いた青き鎧、ゼロスラッガー・ギア・スーパー・フォームを装着するとパンチのラッシュを仕掛ける。

ネクサス」「コアインパルス！！」

ゼロSF「エメリウムスター・ビーム！！」

お互に胸から光線を放ち、それも中央でぶつかり合つと爆発し、今度はお互に吹つ飛び。

ネクサス」「ぐつ！」

ゼロSF「やっぱすげえなー！」

お互に地面に背中をぶつけた後に体制を整えるとネクサスJはジュネッスブルーに、ゼロSFはゼロスラッガー・ギアをスーパー・フォームから銀色の鎧、キーパーフォームへと変える。

ネクサスJB「はつー！」

「だつせん」アズロゼ

スピードで攻めるネクサスJ-BにゼロK-Fはカウンターを狙つて攻めて行く。

チルノ「凄いぶつかり合いだね」

紫「流石はウルトラ戦士の神ね…」

それにチルノはそう言い、紫は評価する。

ゼロKF「これで決めるぜ！」

ネクサスJB「ああ！」

ゼロKFはリフレクションブレードにエネルギーを集中し、ネクサスJBはアロー・アームドネクサスから光の弓^{アロー・レイ・ショット}と光の剣を発生させ、ファイナルモードを形成する。

ゼロKFC「食らえーーー！」

ネクサスJB「オーバーアローレイ・シュトローム!-!」

ゼロKFがリフレクションブレードから光線を放つと共にネクサスJBは巨大な鳥のような光の矢を発射し、それが中央でぶつかり合い、爆風が起こる。

スネーク「勝敗は！」

魔理沙「どうなつたんだぜ！？」

大妖精「…」

静葉「晴れて行くわ！」

それぞれ吹き飛ばされない様に踏ん張る中、煙が晴れて行き…

ゼロKF&ネクサス」B「…………」

ソードモードにしたアローラームドネクサスをゼロKFの喉元に突き付けるネクサス」Bの姿があった。

溝呂木「勝負ありだな…」

ゼロ「ああ…俺の負けだ。やつぱすげえな」

ネクサス「いや、私もなかなか危なかったよ」

溝呂木の言葉と共にゼロはスラッガーギアを解除してゼロスラッガーを頭に戻しながらそう言い、アンファンスに戻ったネクサスがそう叫ぶ。

百華「なあ、もう一回審判を勤めて貰いたいんだが…」

溝呂木「何だ？お前もノアもといネクサスと戦いたいのか？」

肩を揉んでる溝呂木に百華が話しかけ、そう聞かれると首を横に振つた後…

百華「マリオ！丁度良い機会だからお前にタイマン勝負を申し込む

「...」

ズビシッ！ヒマリオを指して百華がそう申し出る。

次回に続く。

シシコミメンバー「次回かよーー！」

第3・4話・ソロ▽Sノア（後書き）

「テステイニー」「なんだよ最後！」

丁度良いと思つたので真王さんのリクエストに繋げ様と思いました。

スネーク「さよか…」

ネス「次回を楽しみにしてね」「

第35話・百華ヒタチマン（前編）

スネーク「魔王からのワクエスト話だ」

ネス「いや～どうなるんだろうね～」

リュカ「そうだね～」

第35話・百華とタイマン

前回のあらすじ…ソロとノアの戦いの後に百華がマリオにタイマン勝負を挑んできた。

百華「ルールは能力を使わず拳だけの一本勝負！どちらかが倒れるまでだ！」

マリオ「良いだろ？」「こっちもお前と一度戦って見たかったんだ！」

百華の説明にマリオは同意すると構える。

溝呂木「んじゃあ両者、準備良いか?」

溝呂木の問いに2人は頷いた後に溝呂木が始まると同時にお互
いに拳をぶつけ合う。

そしてそのまま拳のラッシュをしていく。

「デステイニー」「何」の北斗の拳の様な拳のラッシュ！」

ウイング「もしくはドラゴンボールだな」

ジャンヌ「いや何でそこは自分達のシリーズで出さないの…?」

「デステイニーとウイングの言つた事にジャンヌがツツ「ミ」を入れて
る間もまだ続く。

「アーニー、おまえの仕事はもういいやつだ。」

「……………」

萃香「いや～凄いね～」

神奈子「確かにそうだね」

早苗「（）と書つか展開がウイングセラの三つ連つドリブルミ
たいになつてますよ・」

相手の来る攻撃を払つたり、僅かな動作で避けるマリオと百華に萃
香と神奈子は感嘆し、早苗は冷や汗を搔く。

そう言う観客のを言葉を気にせずには2人はお互いに目の前にいる対戦相手に拳を振る。

どちらとも未だにダメージがなく、どちらもフェイントを入れようとするが見抜かれて決まらない。

フォックス「なかなか決まらないな」

ヨッシー「ホントですね」

ガノン「大根とキュウリお待ち」

にとり「おつ、来たよ雛」

雛「ありがとうね」

咲夜「はい、
美鈴」

桺（東方）「わふう」

鈴仙「あの…人参ビーフ」

美鈴「あの…一斎には…」

パチュリー「はい、どうぞ」

魔理沙「サンキュー」

ルーニア「さて、同士が戻るまでたっぷり補給するか」

ミステイア「ア————」

それをとうとう餌を食べながらメンバーは観戦する。

ちなみに、この時、またも感じ取った妖夢にアリスと幽々子が血涙を流して呪術王側をぎょっとさせたかは知らない。

マリオ「いくぞおおおおおおおおおおおおおお…！」

百華「おおおおおおおおおおおおおお…！」

そう言つた後に2人は力の限り、パンチを繰り出す。

繰り出されたパンチは同時に相手の頬に命中する。

ソロ「おつー？」

ソラ「あれは！」

ネクサス「クロスカウンター…」

誰もが驚き、ネクサスが言つた瞬間、マリオは膝を付く。

それに誰もがマリオが負けたと思つた瞬間…

溝呂木「勝者、マリオ」

溝呂木の言葉に一部を除いて驚き、フランフランながら立ち上がるマリオを尻目にスネークが近寄り、百華を見て驚く。

スネーク「こいつ…そのまんまで氣絶している

マリオ「危なかつた…今回運が良かつた」

スネークの言葉の後にマリオは口を拭いながらそう言つ。

その後、ネクサスはノアに戻り、帰る直前…

ノア「いい忘れていたことがある。溝呂木をそちらの学園で教師にしてもらいたい。彼はザギに人生を狂わされたから、その償いをしたいのだ。」

真王にそう言い、それに真王は快く了承し、それに満足げにノアは頷いた後に帰つて言った。

新たな教師も加わった超次元学園は賑やかになつたのであった。

第35話・百華とタイマン（後書き）

リュカ「と言つて、で真王さんからのリクエスト話でした」

ネス「いや～、凄いバトルだったね」

フォックス「ホントだよな」

クッパ「次回を待ってるのだ！！」

第36話・楓の心配（前書き）

スネーク「ゴートニアからのリクエストだ」

ネス「ホントね…」

リュカ「…」

第36話・楓の心配

楓「はあ…」

楓は最近、楓はナンパする者達を成敗する柾を心配していた。

理由は柾が何かに巻き込まれないか不安だつたからだ。

柾「はあ…」

柾（東方）「わふう？」

そしてその本人である柾も柾で楓が何時もナンパされる為心配していた。

無意識に首を傾げる柾（東方）の頭を撫でていた。

靈夢「ねえ、何であいつ等ため息付いてるの？」

それを見ていた靈夢がそう聞く。

新八「あ…楓ちゃんって良くナンパされるんだよ」

ルイージ「それを良く柾ちゃんが成敗してるんだよ…」

魔理沙「お～ある意味お姫様を守るナイトだな」

新八とルイージの説明に魔理沙は笑つて言つ。

ルイージ「さつと2人はそれぞれ互いに心配してるんだよ」

靈夢「お互にお互いを心配ね…」

魔理沙「何かそれ関係で着そうだな…」

ルイージの言葉に靈夢は頬をポリポリし、魔理沙がそつそつが、この後、その魔理沙の予感は当たっていた。

楓と桺は一人で買い物に行つていた。

桺「今日の料理は何?」

楓「そうだね…」

そつそつ話していふと…

? ? ? 「よつ、」の前良くもやつてくれたな」

桺「あつ、あんたはー」の前のー」

目の前に立つた前に楓をナンパした集団の1人に桺は楓を守りひとつとした時…

楓「さやつー」

桺「楓ー? んー?」

後ろにいた楓の悲鳴に桺が振り向いた瞬間に口を何かで覆われたと認識した瞬間に気を失う。

ナンパ「よし、連れて行くぞ」

それを見た後に集団は楓と榎を連れて行く。

？？？「おや？幻想卿に行つたら変な奴等がいたからボコッて魔理沙に会いに行こうと霖之助に聞いたこの世界に着いて早々に誘拐を見るとはね…ちょっと成敗しに行きますか」

それを1人の女性が見ていて、笑顔で言った後にその集団を追った。

第36話・楓の心配（後書き）

リュカ「と言つて、『コート・ペアさんからのリクエスト話でした！』

スネーク「ある意味珍しいな花が誘拐されるの」

フォックス「だな」

クッパ「ってか最後に出たの…」

ワリオ「次回を待つてろよ！」

第37話・桜の逆鱗（前書き）

スネーク「ゴートニアのリクエスト続きただ！」

ネス「やばいね

リュカ「うん…」

オリマー「始まるよー。」

第37話・桜の逆鱗

セレナは走っていた。

丁度楓と桜が誘拐される所を見かけ、追跡しているのだ。

マリオ達にはもう連絡済で後から来る。

? ? ? 「ちょっとね」のお嬢ちゃん

そんなセレナに声をかける者がいて、セレナは立ち止まつてした方を見る。

そこには女性がいた。

セレナ「あなた何者?」

女性 魅魔「あたしゃちよいと弟子に会いに来た悪霊の魅魔さ、見るからにあんたはさつき連れて行かれた子の知り合いだろ?一緒にあの集団をぶつどばすからには声をかけようと思つてね」

警戒するセレナに魅魔は笑つて名を名乗り、セレナに話しかけた理由を言つ。

魅魔「どうだい?」

セレナ「… そうね。こんな所で話しても仕方ないし良いわよ」

魅魔「話が早くて助かるよ」

そつ言うと2人は駆け出す。

廃工場に連れ込まれた二人はそれぞれ別々の場所に連れ込まれていた。

桜「くつ！」

ナンパ2「おらおらー！」

ナンパ1「今までのお返しだ！」

桜は数十人にリンチされていた。

楓「何度も言いますが断ります！」

リーダー「ホントに強情な娘だな！」

楓はリーダー格の男に自分の女になれと言われ断る度に暴力を振るわれる。

リーダー「強情な女だ！お前等！」「いつもやれ！」

楓「ああ！」

桜「（楓！！）」

何十回か繰り返すと楓も桜と一緒にリンチされ出し桜の逆鱗に触れた。

その瞬間…

？？？「悪靈符『魅魔スパーク』」

ド、ゴー――――ン――！

集団半数「ぎやああああああああ――！」

声と共に外からの黒い光線が放たれ、2人をリンチしていた半数が飲み込まれる。

それに残っていた者が驚いている間に楓と梶をヴォルフレイムハートが救い出す。

楓「セレナさん…」

ヴォルフレイムハート「大丈夫2人共？」

梶「大丈夫よ…こつちは今、あいつ等をぶちのめしたいから…」

魅魔「いや、過激な女の子だね、魅魔さんはそう言つ子は嫌いじゃないね」

距離を取つて安否を聞く、ヴォルフレイムハートに梶は怒り爆発な顔で良い、魅魔が笑顔で言つ。

梶の怒りの逆襲が始まる。

第37話・査の逆鱗（後書き）

リュカ「と言つて、コートペアさんのリクエスト話はまだ続きます」

ネス「魅魔さん登場～」

クッパ「うむ…」

ワリオ「次回を待つてろよー。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5885x/>

超次元学園へようこそ！！『スマハツストーリー』

2011年11月30日15時54分発行